



安全管理活動分科会①

会場 札幌コンベンションセンター 大ホール(A)

9月17日(木) プログラム(9:00開場)

9:30 ～ 9:50	①ヒヤリ・ハット事例検索システムの活用による災害防止活動について 北海道パワーエンジニアリング(株) 安全品質管理室 安全管理グループ 担当副長 瀬川 大輔	労働災害防止活動の中でも、有効な手法として推奨される「ヒヤリ・ハット事例の活用」について、各作業での事前確認による類似事象の防止と関連災害防止を行うため、過去の事例をデータ化し、有効かつ迅速に抽出することを目的として構築したシステムと今後の課題を発表する。
9:50 ～ 10:10	②感電死亡事故を教訓とした感電事故防止ルール再構築 北海道旅客鉄道(株) 函館支社 電気指令 主席 後藤 勇人	2024年5月に発生した感電死亡事故を踏まえ、過去の感電事故から策定した対策を見直し、安全性を高めるため、作業ルールを再構築した取り組みを報告する。
10:10～10:20 休憩		
10:20 ～ 11:20	講演 現場力向上の図りかた ～What・How・Whyをキーワードにして～ 早稲田大学理工学術院 創造理工学部 経営システム工学科 教授 小松原 明哲	現場は忙しく、人の入れ替わりも激しい。そうした中でも、安全確保のためには、現場力の育成が重要と思う。その推進のカギは、What:何をするのか? How:どのようにするのか? Why:どうしてそうするのか?にあると感じる。これらをキーワードに現場力の向上策を模索したい。
11:20 ～ 11:40	③安全目安箱を活用した全員参加型の安全文化醸成と改善事例 テルモ(株) 富士宮工場 EHS推進室 環境スペシャリスト 深澤 勝也	安全活動の形骸化防止を目的に安全目安箱を設置し、全員参加型の取組を推進しました。4年間で累計400件超の意見を現場改善に活かし、危険源除去や作業手順見直し、環境整備など目に見える改善を実現。こうした事例を交え、安全文化醸成のプロセスと成果を紹介します。
11:40 ～ 12:00	④法令の理解・周知による安全な職場づくり『ルール遵守は安全確保の第一歩』 トヨタ自動車東日本(株) 岩手工場 塗装成形部第2塗装課第22塗装係 工長 高橋 忍	ポンプによる挟まれ災害を機に、安全衛生法令への理解不足を痛感。管理監督者が法令を正しく理解し、現場を正しく視る事が出来るよう4ステップに分け法令学習計画を立案・実施。法令と作業場の実態を現地現物で突き合わせ、ソフト・ハード両面から安全な職場づくりを推進。
12:00 ～ 12:20	⑤ロボットアーム導入による測温作業の安全性向上・効率化 日本製鉄(株)瀬戸内製鉄所広畑地区 設備部 プロセス技術室 福田 孟琉	通常の安全ルールをそのまま適用できない稼働物の接触測温作業において、ロボットアームを導入し、測温作業を自動化した。この結果、作業時のリスク低減と効率化を実現した取り組みについて報告する。
12:20 ～ 12:40	⑥リアルとリモートを駆使したハイブリッドパトロール ～全社を繋ぐ安全活動の工夫～ (株)テツゲン 安全危機対策本部 安全推進部 安全推進部長 渡邊 誠司	主な要因は不安全行動災害である。そこで、IT機器を駆使し全社をネットワークで繋いだパトロールを開催。本年は23回実施、参加累計は2,654名、リスクの発掘は138件、結果として2年連続で休業災害はゼロである。ある一定の成果を得た為、この取り組みを紹介する。
12:40～13:30 昼休憩50分		
13:30 ～ 14:00	特別報告 北海道ボールパーク建設の安全管理 ～さまざまな課題克服と挑戦の日々～ (株)大林組 大阪本店 専務執行役員 大阪本店長 兼 大阪本店建築事業部長 竹中 秀文	[世界がまだ見ぬボールパークをつくろう] 関係者共通の合言葉のもと、簡単ではない工期、北海道の厳しい冬、前例のない屋根付き天然芝スタジアムと向き合い建設工事を進めた。1,000日間、延65万人の作業員を費やした工事は苦闘であり、その安全管理は容易ではなかった。
14:00 ～ 14:20	⑦安全パトロールを効果的に行うために ～パトロール実施者の責任と役割の理解度向上～ 東京電力パワーグリッド(株) 業務統括室 安全マイスター 飯野 広士	安全パトロールを効果的に行うためには、パトロール実施者の災害防止に向けた強い意思が必要不可欠である。私たち安全マイスターの役割として社内外の安全教育の場でのパトロール実施者に対する教育(責任と役割の理解)を行っている。その内容の一部を実例を交えて紹介する。



安全管理活動分科会①

14:20 ～ 14:40	⑧地図アプリ (GPS) 活用による線路内の安全管理 西武鉄道(株) 鉄道本部 電気部 飯能電気所 電気部 電力課 主任 末永 大樹	線路内の労働災害発生原因は危険箇所について作業に集中し失念したり気付かなかったことが挙げられる為、社用携帯にGPSロケーションアラート機能付の地図アプリを導入し、危険箇所へ近づく前にアプリがアラートを発報し、思い返し気付かせることで労働災害の未然防止を図る。
14:40～14:50 休憩		
14:50 ～ 15:10	⑨エスコンフィールドを支える昇降機設備と安全 フジテック(株) 北海道支店 技能コーチ 中川 淳詞	北海道を拠点とする日本ハムファイターズ本拠地である「エスコンフィールド」に、エレベータ・エスカレータを計30台納めさせていただいております。開業から約3年経過し、今まで大きな故障発生もなくご利用様の安全第一に取り組んでまいりました。
15:10 ～ 15:30	⑩広く浅い活動からの脱却 ～理解・納得させ行動に移せる人財への育成～ 日産自動車(株) 横浜工場 工務部 工務課 工長 阪野 三千雄	過去から現在までの災害から振り返りをおこない、安全活動の中でも継続している活動はどうして出来ているのか?を調べ、今後の安全活動を監督者として、どの様に進めていけば良いかを考えた。
15:30 ～ 15:50	⑪協力会社と築く「現場発」安全文化 ～TBM活動の実践と成果 住友化学(株) 愛媛工場 環境・安全部 安全衛生課 スタッフ 高橋 茂樹	化学工場の工事作業で重篤な災害が相次ぎ、協力会社のTBMを現場で直前に全員参加で徹底推進。トップダウンと現場支援の両輪で質向上と安全意識改革を図り、協力会社と二人三脚で無災害の好循環に繋げた事例である。
15:50～16:00 休憩		
16:00 ～ 16:20	⑫現場主体で実践する災害防止活動(運搬・作業指示KY・作業標準RA)について 日本軽金属(株) 名古屋工場 事務課 安全衛生局 安全衛生局係長 山口 英治	当事業所では2008年に発生した2件の休業災害を機に、2009年より現場リーダーを主体とした運搬安全・作業指示KY・作業標準RAの3班による災害防止活動を開始しました。結果2010年～2024年の15年間で休業3件、度数率0.23。
16:20 ～ 16:40	⑬保線の安全知識・安全スキルに関する取組みについて 東日本旅客鉄道(株) 新潟支社 新潟保線設備技術センター 保線安全推進グループ 主務 目黒 光太郎	鉄道の保線作業におけるルールを逸脱した事象を踏まえ、安全知識と安全スキルを強化することを目的に、弱点可視化や勉強会、事例分析・検討を通じて気づきと対話を深め、安全文化を高める取組みである。
16:40 ～ 17:00	⑭仙台地下鉄メンテナンスにおける事故防止の取り組み 仙建工業(株) 仙台支店仙台出張所 工事主任 高橋 鷹斗	仙台地下鉄メンテナンスにおける過去の重大事故を教訓に「特殊車両運行事故防止」や「作業計画段階の徹底打合せ」「安全教育強化」等について事故ゼロ継続を目指す取り組みを紹介します。

9月18日(金)

プログラム(9:00開場)

9:30 ～ 9:50	⑮「大丈夫だろう」を捨てた挑戦 ～行動・状態・ルールで築く安全 (株)北海道LIXIL製作所 加工2課 課長 神尾 有恒	安全方針「“大丈夫だろう”という考えを捨てた、“危険かもしれない”前提のリスク先取り意識」実現に向けて、三つの視点(行動・状態・あいまいなルール)で新たな安全巡回を通し、工場全体の安全意識の醸成と行動変革を実現しました。
9:50 ～ 10:20	特別報告 産業安全の現状と課題 ～第14次労働災害防止計画4年目の取組等について～ 厚生労働省 労働基準局安全衛生部安全課 安全課長 土井 智史	産業構造や就業構造の変化に伴い、多様な人材が安心して安全に働ける職場づくりが求められている。労働災害発生状況を踏まえて、皆さまの職場で取り組んでいただきたい安全管理活動について厚生労働省の取組とともに紹介する。
10:20 ～ 10:40	⑯製造部門一体で取り組む安全管理活動について 京セラ(株) 鹿児島川内工場 セラミック2事業部 セラミック2管理部 川内セラミック安全衛生課 メンバー 中島 優里	安全第一を掲げつつも、現場に目を当てると安全以上に納期や品質が優先されているという実態は決して少なくない。当事業部では製造部門の中に安全活動を専業で行う組織を発足し様々な安全活動を展開した。ここでは組織発足から取り組んだ活動事例まで、その経過と効果を紹介する。



安全管理活動分科会①

10:40 ～ 11:00	⑰383系 振子装置のRガイド清掃作業の機械化による3K作業の排除 東海旅客鉄道(株) 東海鉄道事業本部 名古屋工場 台車センター 車両技術係 若松 亮佑	名古屋工場の台車検修で残存する3K作業として、383系車両の「Rガイド清掃作業」があり、これは腰痛や熱中症リスクがある。同作業は将来に亘って発生することから、協働ロボットの検証・清掃装置の独自開発の2つのアプローチで機械化に取り組み、3K作業の排除を達成した。
11:00～11:10 休憩		
11:10 ～ 11:30	⑱ヒヤリハットのシステム化による安全な職場づくり イビデン(株) 青柳事業場 生産推進本部 安全衛生部 職場安全革新グループ メンバー 菱田 柚季	職場安全サークル活動として、安全サークル会議、KYTの実施、ヒヤリハット活動、安全ニュースの展開などの活動の中のヒヤリハット活動をデジタル化し、抽出から対策までの進捗の見える化と対策内容の全グループの一元化に取り組んで、安全な職場づくりにつなげた。
11:30 ～ 11:50	⑲意識から変える!異なるアプローチからの転倒災害防止への挑戦 トヨタ自動車北海道(株) 安全健康推進部 安全健康推進室 安全グループ 主任 伊藤 文人	2024年度に、3大要因「つまずき」による転倒災害が多発。「作業外での転倒」が、それまでの50%から80%へ増加。物的対策や従来の考え方から離れ、若年層も含めた全従業員の『意識から変える転倒防止アプローチ』についての取り組みを発表する。
11:50 ～ 12:10	⑳高所作業車における挟まれ防止単管の改良とその効果について (株)JR西日本レールテック 中国支店 山口調査監理センター 技術主任 福永 一臣	高所作業車での点検は、作業員が構造物とバケット間で挟まれる危険があり、対策として挟まれ防止単管を設置している。しかし、設置撤去の手間や狭隘部での作業性に課題があった。協力業者からの提案も踏まえ、安全性と作業効率の両立を目指し単管の改良を検討した結果を報告する。
12:10 ～ 12:30	㉑40年の沈黙を破れ ～対話・第三者視点・称賛で創る新安全風土～ (株)西日本電機器製作所 製造部 組立科 科長 穂吉 省二郎	40年放置された危険が労災で顕在化し、慣れと過信による組織課題が浮彫りに。対話・第三者視点・称賛の三位一体戦術を軸に、経営層と現場の直接対話、社外診断による社内常識の破壊、称賛文化の構築に取り組んだ。過去との決別を果たし、安全は自分たちで創るものへ変化させた。
12:30～13:20 昼休憩50分		
13:20 ～ 13:40	㉒「伝える安全」から「伝わる安全」へ ～レッツ・ブラッシュアップ!安全活動～ (一社)日本自動車工業会 安全衛生分科会 Bグループ研究会委員(株)SUBARU 安全衛生推進室 安全企画課 係長 小島 康彰	本研究会は関東圏自動車完成車メーカー7社で構成され、労働災害増加を受け過去10年分データを分析した。各社様々な安全活動を行っているが、従来のやり方で従業員の皆さんに響いているだろうか。視覚に訴える、感性に訴えるなど工夫を重ね、伝わる安全活動への改善を提言する。
13:40 ～ 14:00	㉓見えない「安心」をカタチに デザインと戦略づくりで心を動かす 静岡大学 静岡キャンパス事業場 安全衛生センター 教務職員 渡邊 麻弓	グラフィックデザイナーの観点から安全衛生に関する啓発活動を考える。見えない情報を可視化し、効果的に「人に伝える」資料を作成する。ビジュアルによる働きかけで、潜在意識へ浸透。分かりやすく、伝わりやすいデザインにするための表現を、事例を挙げながら解説する。
14:00 ～ 14:20	㉔構内協力会社への安全監査による工事 安全管理強化の取組み デンカ(株) 青海工場 環境保安部 環境保安部長 萩原 尚吾	工場で実施される工事の安全を確保するには、工事施工業者への危険有害情報の確実な周知と工事に関わる各社の安全衛生水準向上が不可欠である。弊社では工事元請け業者への安全監査を軸に、工事の安全管理を図る取組みを進めている。本発表ではその仕組みと改善事例を紹介する。
14:20 ～ 14:40	㉕災害要因の6分類による重篤災害防止と 休業災害度数率低減の実践 AGC(株) 電子カンパニー 事業基盤本部 事業基盤推進部 環境安全グループ 安全・保安防災チームリーダー(シニアマネージャー) 森山 聡	災害を主要因別に作業や行動など6種類に分類し、重篤災害防止環境の維持状況と休業災害度数率低減策をグラフで可視化。改善すべき重点ポイントを科学的に特定し、継続的な安全管理の精度向上を実現。現場リスク低減に直結する実践的手法として有効性を確認した。
14:40～14:50 休憩		
14:50 ～ 15:20	特別報告 令和8年度日本化学工業協会 安全最優秀賞事業所 「安全を生産する工場への挑戦」 荒川化学工業(株) 小名浜工場 マネージャー 石井 秀樹	いくつかの大きな出来事が起点となり、安全への思いや活動を深化させていった。全員が考動・参画・協力して進めることができた経過や取り組みを、事例を通して紹介する。



安全管理活動分科会①

15:20 ～ 15:40	②⑥軌道上の開口部を意識させる対策 JR東日本メカトロニクス(株) 首都圏ホームドア工事支店 工事部 第4工事課 主任 坂本 雄大	自簡所で発生した事故から現場レベルで考え継続している、「資機材を軌道に残さず、従事員が気づき、落ちない」軌道内開口部対策。
15:40 ～ 16:00	②⑦成田国際空港と工事会社が一体として取り組む安全衛生管理活動、熱中症対策について 成田国際空港(株) 整備部門 工事部 担当部長 早川 勇	成田国際空港では、空港工事の安全水準向上を目的として、工事会社と共に「成田国際空港建設工事安全衛生協議会」を組織し一体的な安全衛生推進活動に取り組んでいる。中でも広大で遮蔽物の少ない空港では熱中症対策が重要な課題と捉え、発注者として取り組んだ活動を報告する。



安全衛生教育分科会

会場 札幌コンベンションセンター 大ホール(B)

9月17日(木) プログラム(9:00開場)

9:30 ～ 9:50	①室蘭工業大学における安全衛生教育体制の構築と改善 ～ 学生にも特別教育を ～ 室蘭工業大学 技術部第二技術室 安全教育・安全技術チーム 技術専門職員 太田 典幸	2026年度の安衛法改正による教育対象拡大に先駆け、室蘭工業大学では法的義務のない学生にも特別教育等の受講を義務化している。受講者アンケート結果に基づき教材や指導方法を改善し、その具体的な効果と11年間の実績、地域企業への展開事例を報告する。
9:50 ～ 10:20	特別報告 なぜ北大の安全教育は学生に響くのか ～AI時代にこそ必要な「人を護る」への意識改革 北海道大学 安全衛生本部 教授 川上 貴教	大学での安全教育は期待されていない。その常識を覆す北大大学院最大級の履修者を誇る授業科目がある。対面、オンライン、そしてAI時代へと変遷しつつも、変わらず「専門家として人を護る覚悟」を説いて学生の心に火を付ける。そんなマインドセット教育の舞台裏を紹介する。
10:20 ～ 10:40	②危険を“体感”し、安全を学ぶ ～労働災害防止に向けた危険体感研修の取り組み 北海道電力(株) 次世代エネルギー部 安全・カイゼン・技術教育センター グループリーダー 小野寺 満	北海道電力では、現場で起こり得る危険を「体感」し、危険感受性を高めることを目的に、当社社員やグループ会社に加え、社外企業・団体を対象に危険体感研修(講義+体感32項目)を実施しており、今後も北海道における労働災害ゼロの実現を目指して行く。
10:40～10:50 休憩		
10:50 ～ 11:10	③一人ひとりの危険感受性を高める安全行動教育の導入 自律的安全行動の定着を目指す 日立建機(株) コンストラクションビジネスユニット 生産統括部土浦製造部組立課生産支援係改善組 一般 結束 竣	教育訓練を各種実施しているが災害発生件数に歯止めが効かない現状を踏まえ、作業者の危険感受性向上を目的に、自律的安全行動の定着を促す教育の在り方を再検討し、災害未然防止につながる安全行動教育の導入について報告いたします。
11:10 ～ 11:30	④災害の記憶を力に変える ～風化防止から始まる安全職場づくり～ 日産自動車(株) 横浜工場 パワートレイン・EVコンポーネント生産技術開発本部 素形材・成形技術開発部 型製作課 安全健康管理係長 磯田 孝	当課安全活動は毎年同じ活動を実施したことでマンネリ化し、作業者の安全意識レベルも下がり、災害が発生したと振り返った。横浜工場【安全基本理念】・【行動基準】をベースに、当課の安全活動の紹介と、全員で災害ゼロを目指した安全な職場づくりを紹介する。



安全衛生教育分科会

11:30 ～ 11:50	⑤「安全健康行動原則」の浸透に向けた取り組み ー「安全を創ろう。」CREATE !ー 中部電力(株) 安全健康推進部 安全推進グループ 担当 足立 実優	経営の基盤である安全文化の醸成を実現するため、すべての役員と従業員の具体的な行動規範として、当社が2019年に制定した「安全健康行動原則」を社内に浸透させて行動変容を促す必要がある。このための従業員教育や社内広報を通じての取り組みについて報告する。
11:50～12:40 昼休憩50分		
12:40 ～ 13:00	⑥全従業員の安全意識改革の取り組み ～『心・技・体』の観点を軸に 住友ベークライト(株) 尼崎事業所 生産技術部 安全担当者 藤原 伸幸	当事業所では2022年に連続災害が発生し、従業員の安全意識低下が重要な課題と考えました。そこで、「安全は全てに優先させる」という理念のもと、『心・技・体』の観点を軸に取り組んだ安全意識改革の内容を報告します。
13:00 ～ 13:20	⑦仕事に活かせる「3+1方式の危険予知訓練」を行うトレーナーの養成 日本製鉄(株) 本社 安全環境防災部 部長 朱宮 徹	(行為・現象・被災+対策)をセットで考える3+1方式の危険予知を考案した。これを実作業で活かすためには危険予知訓練が有効である。訓練を行う際の題材の選び方、リスクの上げさせ方、記録様式、指導の方法などをまとめ、3+1方式の危険予知訓練のトレーナー養成を行った。
13:20 ～ 13:40	⑧自社オリジナルの安全漫画教材制作 (株)タダノ 総務部安全衛生グループ 穴吹 康隆	漫画は最強の学習ツール。安全に対する関心を高めるために、漫画教材の制作に取り組んだ。本当におもしろい漫画でなければ、世界感に没頭することは出来ない。漫画「アンメット」を描かれた大槻閑人氏に依頼し、今までにない弊社オリジナル漫画「ONE LIFE」を誕生させた。
13:40 ～ 14:00	⑨拡大する電気自動車に関連した労働災害未然防止 ～自動車業界の未来に向けた人づくり～ (一社)日本自動車工業会 安全衛生分科会 Aグループ研究会委員(三菱自動車工業(株)人事本部 ビジネスパートナー 人事部 安全健康推進 マネージャー) 兒玉 将也	電気自動車の普及でバッテリーの高電圧・大容量化が急速に進み、感電や火災など新たな労働災害リスクが増大している。未然防止には安全方策が不可欠である。本研究会では、それを支える人材育成の視点から各社の取り組みを紹介し、問題点を共有し、解決案を提言・報告する。
14:00 ～ 14:20	⑩保安感性啓発館の開館!スマート安全教育で高める“自分ごと化”とコミュニケーション Daigasガスアンドパワーソリューション(株) 経営企画本部 保安安全管理チーム 廣田 義和	視覚認知機能や転倒リスクの可視化、危険体感VRなどを取り入れ、“自分ごと化”を深める事に注力した安全教育である。測定結果を共有することで同僚とのコミュニケーションが促進され、組織全体の安全意識が向上する。楽しみながら安全活動に参加できることも大きな成果である。
14:20～14:30 休憩		
14:30 ～ 14:50	⑪効果を発揮するKYTの追求 ～カインズ流KYTの成長の軌跡～ (株)カインズ 総務部リスク対策室安全対策グループ グループマネージャー 加藤 友信	弊社独自のKYTは、開始5年が経過した今でも月20,000人以上が実施し、事故件数は着実に減少している。「とりあえず実施してもらう」段階から「効果を発揮する」完成形に至るまでのブラッシュアップを背景・効果と共に紹介する。小売業以外の業種の方にも聞いて欲しい。
14:50 ～ 15:10	⑫危険有害要因の共有によるリスクレベルの低減 川崎重工業(株) 西神工場 航空宇宙システムカンパニー 航空エンジンディビジョン エンジン生産総括部 西神製造部 西神検査課 班長 板東 泰寛	非破壊検査職場で熟練者と未経験者の危険認識に差があることを課題とし、リスクアセスメントで危険を洗い出し、教育により認識統一を図った。未経験者への理解浸透に苦労したが、認識共有とリスク低減を達成した取り組みである。
15:10 ～ 15:30	⑬労働災害への意識を「ひとごと」から「自分ごと」にシフトさせる教育体制の構築 九州旅客鉄道(株) 小倉総合車両センター 鉄道係 伊東 萌香	労働災害の主要要因であるヒューマンエラーを防止するために、労働災害を「ひとごと」ではなく「自分ごと」として捉えて安全意識を高め、ヒューマンエラーを引き起こす行動特性を理解した上で実体験を通じて学ぶ教育体制を構築した。
15:30 ～ 15:50	⑭実践型安全教育による人財育成 ー鉄道工事“事故ゼロ”を目指してー 広成建設(株) 岡山支店 安全推進室 担当課長 西村 保彦	当社はJR西日本グループの総合建設会社として、土木・建築・線路の社会資本整備に安全最優先で取り組んでいる。鉄道工事は危険を伴う作業で労働災害事故が多く発生していることから、現場の作業従事者を対象に実施している実践型の安全教育について取組内容を紹介する。



安全衛生教育分科会

15:50~16:00 休憩		
16:00 ~ 16:20	⑮「若手イキイキ応援チーム」による若年層の育成とメンタルヘルスケアの効果について (株)ユアテック 山形支社 設備部 空調管設備課 副長 高橋 雅記	当社空調管設備部門において、中期経営計画による売上目標に応じ、新規採用および経験者採用を計画的に行っている。若年層の早期戦力化を確立させるために様々な人材育成施策を行っており、そのひとつ「若手イキイキ応援チーム」における効果と課題について紹介する。
16:20 ~ 16:40	⑯安全衛生教育の再構築と計画的資格取得による管理体制強化 (株)アステム 製造管理部 安全推進室 係長 和久 智樹	弊社では労働災害は減少傾向にあるが、近年の被災者の傾向を調べると中堅社員や外国人労働者が占める割合が多く、再教育を継続できず現場OJTに頼りきった教育方法だった。必要資格取得に関しても場当たり的だったため、計画的な教育と資格取得を推進する活動を行った。
16:40 ~ 17:00	⑰労働災害防止に向けた安全衛生教育 JX金属(株) 環境安全部 主事 岡本 直人	当社では、危険源対策強化による重篤な労働災害防止のため、グループ全体で一丸となって複数の施策を実施してきた。このうち、本社環境安全部を中心に当社グループの課題把握・教育・体制構築のために実施した取り組みの成果や今後の展望を報告する。

9月18日(金) プログラム(9:00開場)

9:30 ~ 9:50	⑱安全衛生教育の取り組みについて (株)北海電工 安全品質部 教育グループ グループリーダー 千葉 文彦	当社の安全衛生教育のうち職長教育等の全社共通の教育については、安全品質部が講師となり事業所へ出向き実施する他、再教育にWEB方式を採用し、効率化や利便性向上を図っている。VR機器を活用した危険予知訓練や高齢者向けの安全教育等も実施し更なる安全への取り組みを進めている。
9:50 ~ 10:10	⑲新しい体感教育を通じた危険感受性の覚醒! (株)東光高岳 リスク・コンプライアンス統括部安全・防災統括グループ 副課長 上松 幸広	当社では「安全・品質・コンプライアンスを最優先(以下、SQCFファースト)」する新生東光高岳として、再出発し特に安全を最優先とし災害防止に取り組んでいる。とくに人材育成として新しい体感教育を通じ危険感受性の覚醒を狙った安全教育・フォローの体制を構築した。
10:10 ~ 10:30	⑳VRを活用した「安全道場」の設置・教育の開始 KMバイオロジクス(株) 本社/熊本事業所 生産統括部管理課 宮本 将史	労災ゼロを達成するために、今までの座学中心の安全教育ではなく、災害の「怖さ」を体感できる安全道場での教育を開始した。安全道場にてVRを活用した危険体感教育を行うことにより危険感受性や危険検知力を向上させて、災害の未然防止に繋げていく取り組みを紹介する。
10:30 ~ 10:50	㉑現場の知恵と工夫をデジタルで結ぶ安全教育イノベーション拠点の構築 第一工業製薬(株) 四日市工場 生産本部 四日市工場 総括課 豊田 若菜	現場の知恵と工夫を基盤に安全教育研修施設を整備し五感を通じた体感教育の他、補えない部分をDX技術で補完。アナログとデジタルを融合し、持続可能な安全管理モデルとして現場の安全文化を強化する仕組みを紹介。
10:50~11:00 休憩		
11:00 ~ 12:00	講演 社員をカスハラから守る!—安全配慮義務と企業責任—カスハラ対策徹底解説 (一社)日本ワークルール検定協会 理事/ラジオパーソナリティ 齊藤 勉	カスハラ対策を法律・実態・現場対応の視点でバランスよく、手品も交えて分かりやすく解説すると全国で評判の道内第一人者の講師が、改正労働施策総合推進法に沿った労働者保護の具体策を紹介する。
12:00~12:50 昼休憩50分		
12:50 ~ 13:10	㉒人に寄り添い、安全第一を実践できる人づくりへの挑戦 (株)豊田自動織機 大府工場 コンプレッサ事業部安全・総務部 安全衛生室 大府安全衛生G メンバー 水越 貴秀	新配属者の災害が増加。資料による一方的な教育を打破する必要があった。3原則を実機で体験、KYTは本人の作業動画を活用し、第三者と共に危険を見つける。ヒアリングでは一方通行にならない様に、人に寄り添ったアドベンチャーヒアリングを実施。



安全衛生教育分科会

13:10 ～ 13:30	②③ 検電接地撮影アプリの開発と展開による安全・効率化への取り組み 東日本旅客鉄道(株) 大宮支社 大宮電力設備技術センター 副長 倉岡 舞	感電死亡事故を契機に、接地確認の確実化を図るため撮影義務化を導入したが、現場負担が課題であった。そこでGPSと撮影者情報を自動記録し、クラウド連携で管理を効率化するアプリを開発し、操作性に工夫しつつ安全性と記録精度を高めた取組である。
13:30 ～ 13:50	②④ 研究室の安全は自らの手で：局所排気装置「検査者養成」を通じた維持管理の徹底 静岡大学 浜松キャンパス事業場 安全衛生センター 安全衛生技術長 中山 政勝	静岡大学では平成18年より、化学物質の安全使用と維持管理を目的とした「局所排気装置定期自主検査者養成講習会」を教職員向けに実施している。本事例は、教職員が検査者となることで化学物質管理の徹底と安全な教育研究環境の維持を図る取り組みの紹介である。
13:50～14:00 休憩		
14:00 ～ 15:00	講演 伝えるのは命 繋ぐのは命 旭川市旭山動物園 統括園長 坂東 元	旭山動物園はその動物らしい行動を発現させ、次世代に命を繋げる環境を整備している。行動が豊かになると動物の側にも飼育スタッフの側にも思わぬ事故につながる事態が生じる可能性がうまれる。いかにその事態を予測し先回りをして回避し、その動物らしさを縛ることなく開放し続けられるかが私たちの仕事である。
15:00 ～ 15:20	②⑤ 感電事故再発防止における検電器実習機の開発 JFEプラントエンジニアリング(株) 東日本事業所建設センター 第一制御工事部 係員 今林 創	当社は'23年8月に感電ヒヤリを発生させた。主原因は検電器の機種変更による操作確認方法の違いだった。そこで新旧検電器の特性を分析、問題点を把握。再発防止に現場に即した検電器実習が出来る装置を開発。また特許を2件出願し公開。世の中の感電災害リスクを低減したい。
15:20 ～ 15:40	②⑥ 安全衛生教育をより充実させるための提案 トヨタ自動車東日本(株) 本社・宮城大衡工場 安全・健康推進部 鳥畑 成紀	ルール不遵守の労災増加を背景にWG各社の災害事例の分析等を行った。その結果「知識不足」だけでなく「意識不足」もあることがわかった。各社や異業種の好事例を踏まえ、安全風土の醸成や、いかにルールを遵守してもらうかについて、教育で検討すべき要素を提案するものである。
15:40 ～ 16:00	②⑦ 鉄道工事における指令連携強化の訓練事例 東日本旅客鉄道(株) 盛岡支社 盛岡建築設備技術センター 企画G 主任 葛巻 大志	鉄道工事の安全確保には現場責任者と指令員の連携が重要であるが、現場から指令へ連絡することにハードルがあることから、関係者と合同の訓練を実施した。臨場感が出るよう工夫を凝らしたことで、結果として参加者全員の意識が変わったことを確認した。



 電子カタログ
 YouTube
 Instagram





働く方々の手と足を守る、安全と信頼のシモン



株式会社シモン
 緑十字展（つどいむ）でお待ちしております
 ブース番号 D-48



化学物質管理活動分科会

会場 札幌コンベンションセンター 特別会議場

9月17日(木) プログラム(9:00開場)

安全衛生教育

化学物質管理

9:30 ～ 9:50	①時代に合わせた化学物質管理へ～DX化への挑戦～ SDRS(株) 赤城事業所 総務人事本部 AP総務部 総務課 宇野 朝江	当社は従業員の健康を守るべく徹底した化学物質管理を実施してきた。しかし、化学物質を取り巻く環境の変化等により従来の管理方法では“不足・足りない”と感じる部分があると感じていた。本研究は現代の技術を生かし、時代に合った管理方法へ昇華させた活動である。
9:50 ～ 10:10	②自律的化学物質管理に向けた仕組み構築～入口から出口までの一元管理化～ (株)本田技術研究所 管理センター 研究開発安全推進室 安全衛生ブロック アシスタントチーフエンジニア 久保 利行	本田技術研究所和光事業所では、約2500種類の化学物質を管理しており、法改正に伴う規制強化や管理業務の負荷軽減を目的に、化学物質の管理を入口から出口まで一元化しDX化する仕組みを構築した。
10:10 ～ 10:40	特別報告 最新の化学物質規制の動向について 厚生労働省 労働基準局 安全衛生部 化学物質対策課長 中野 響	近年の物質の多様化や国際的な潮流を踏まえ、化学物質管理は限られた物質に対して個別具体的な規制を行う仕組みから、自律的な管理の仕組みに転換している。令和7年の労働安全衛生法等の改正内容などを含め、最新の化学物質規制の動向について紹介する。
10:40 ～ 11:00	③化学物質の自律的管理に向けた対象者別教育の取り組み 三井化学(株) 茂原分工場 健康管理室 衛生管理者 村上 裕美	化学物質管理の更なる適正化を図るため、「管理者」と「化学物質リスクアセスメント実施職場」を対象に教育を実施した。理解促進を重視し、対象に応じた教材を用いて職場一丸となって取り組む意義を共有した。持続可能な体制構築の基盤づくりを進めた取り組み事例を報告する。
11:00～11:10 休憩		
11:10 ～ 11:30	④KOBELCOグループにおける衛生管理強化の取組み～人材育成を中心に～ (株)神戸製鋼所 神戸本社 安全・環境部 安全衛生グループ スタッフ 岡崎 峻也	KOBELCOグループの衛生管理施策は、「管理強化」「人材育成」「維持管理」の3つの軸を基盤としている。今回の発表では、特に人材育成に関する取り組みを中心に報告するとともに、前回大会で発表した化学物質管理システムのアップデート内容についても紹介する。
11:30 ～ 11:50	⑤キャノングループにおける、濃度基準値設定物質追加への対応事例 キャノン(株) 下丸子事業所 本社安全管理課 根本 由美	濃度基準値設定物質の追加により、クリエイトシンプルでの評価結果がリスクレベルⅡ-B以上となる事例が複数発生した。確認測定によらず実施した、濃度基準値以下であることの確認方法の事例(代表的な場所での確認測定、検知管利用)を紹介する。
11:50 ～ 12:10	⑥常態化した騒音の低減：不定形耐火物製造工場一体で取り組んだ改善事例 AGCセラミックス(株) 高砂工場 製造部 製造第1G マネージャー 桜木 優輔	不定形耐火物製造工程では騒音が常態化していた。そこで工場として安全・快適な職場環境の確保を目的に取り組みを開始。トップダウンで主要騒音源に投資して防音対策を施した。これを契機に現場の改善提案が生まれ、更なる騒音低減を実現した。本発表で一連の取り組みを報告する。
12:10 ～ 12:30	⑦分かりやすく負担感なく正確に！デジタル技術を用いた化学物質管理の取り組み トヨタ自動車九州(株) 安全健康推進部 安全衛生推進室 西 俊樹	近年、化学物質管理について各事業場による自律的管理が求められてきている。自律的管理を目指す上で最も重要なリスクアセスメントについて、デジタル技術を用いて必要な知識のサポートやリスク評価の精度向上を行い、現場の負担軽減と化学物質管理レベルアップの両立を図る。
12:30 ～ 12:50	⑧自律的化学物質管理における全体換気下での空調機器等の影響について 松田安全衛生コンサルタント事務所 松田 宏毅	全体換気下での空調機器の影響について、個人事務所として制約が多い中、既存の室内空間に自作で全体換気を設置し揮発溶剤を用いて、扇風機の有無・風向等を変化させ、各条件での室内濃度変化を測定した。結果、一定の条件下において扇風機による改善効果を認めたものである。



化学物質管理活動分科会

12:50~13:40 昼休憩50分

13:40 ~ 15:10	「個人ばく露測定」実施に向けて パネリスト 厚生労働省 労働基準局安全衛生部化学物質対策課環境改善・ばく露対策室 佐藤 誠 独立行政法人 労働者健康安全機構労働安全衛生総合研究所 化学物質情報管理研究センター センター長代理 小野 真理子 株式会社神戸製鋼所 茨木工場 溶接事業部門生産センター 安全・環境室 課長 藤河 研次郎 中央労働災害防止協会 労働衛生調査分析センター 衛生管理士 山室 堅治 モデレーター 中央労働災害防止協会 労働衛生調査分析センター 化学物質調査分析課 課長 島田 真美 労働安全衛生法・作業環境測定法の改正が行われ、令和8年10月から作業環境測定に「作業環境における労働者の有害な因子のばく露の程度の把握をするために行うもの」すなわち個人ばく露測定が追加されることになる。指定作業場に追加されることになった溶接ヒュームの測定、改善が困難な第3管理区分の測定、確認測定を含むリスクアセスメントのための測定の作業場では、一定の要件を満たした作業環境測定士が個人ばく露測定を実施しなければならない。個人ばく露測定の実施に向け、それぞれの立場からの提言及び意見交換を行う。
15:10~15:20 休憩	
15:20 ~ 15:40	⑨塗装補修ブースの騒音改善活動報告 日立建機(株) パワー・情報制御プラットフォームビジネスユニット 生産統括部機器製造部中型コンポーネント製作課 コンポ製作係組立組 組長 高桑 信行 塗装補修ブースの騒音が管理区分Ⅱで作業者の負担となっていたため、構造に影響を与えない対策を検討・実施し、安全な職場環境を実現しました。
15:40 ~ 16:00	⑩愛知事業所のRA活動について ～予防的化学物質RAへの取り組み～ 日油(株) 愛知事業所 環境安全管理室 小島 幸也 愛知事業所では2つの予防的化学物質RAに取り組んでいる。有害性情報に乏しくリスクが不当に低く評価される恐れのある物質に対するものと、できる限りのばく露防止を図ることが求められている発がん性物質に対するもので、優先順位を付けて取り組んでいる。
16:00 ~ 16:20	⑪化学防護手袋の耐透過性における温度の影響 (株)重松製作所 研究部 第二研究室 主任部員 上原 巧 化学防護手袋の耐透過性試験は指定のない場合23±3℃とJIS T 8030に記載されているが、実際の環境温度は夏場又は冬場で違うことが想定される。温度と耐透過性の関係に関する結果は少ないため、温度と耐透過性の関係を調査し、使用における注意事項を説明する。
16:20 ~ 16:40	⑫マスクのフィットテストを現場で実践する際の課題と対応策について (公社) 神奈川労務安全衛生協会 労働衛生技術専門家会議 協会専任講師 桑谷 亜人 自律的な化学物質管理が定着しつつある中、当協会ではマスクのフィットテスト養成研修を実践してきた。今回は実際に現場でフィットテストを実施する中、保護具メーカー、オペレーター、被験者、管理部門等について、課題と対応策について水平展開する。
16:40 ~ 17:00	⑬現場力を育む!工学系学生のための実践的化学物質管理教育 独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 職業能力開発総合大学校 技術基礎ユニット 准教授 宮里 裕二 職業能力開発総合大学校では、化学物質管理のリテラシー教育を1年次の専門基礎科目である「化学」の講義と「化学実験」で行っている。現場で使用する製品のラベルとSDSの読み方、ばく露の低減方法を実践的に学べるようなカリキュラムを実践したので紹介する。



労働衛生管理活動分科会

会場 札幌コンベンションセンター 特別会議場

9月18日(金) プログラム(9:00開場)

9:30 ~ 9:50	①熱中症の予防と対策で作業リスクを軽減し労働災害の未然防止を図る 京王電鉄(株) 鉄道営業部京王西管区 営業掛 佐藤 大樹	駅係員は、屋外作業が少なく熱中症に対し危機意識が低い。しかし、ホーム監視やポイント注油などの屋外作業をする際、意識が低いため危険が伴う。当職場では、熱中症対策係員という熱中症に特化した要員を新設し、様々な施策を行った結果、安全で安心な職場作りに成功した。
9:50 ~ 10:10	②作業姿勢改善分科会による 人間工学とDXに着目した 労働衛生活動 ビューテック(株) 知多事業所 武豊営業所 現業3課 課長 萩原 龍二	自動車ガラス製造において作業姿勢を改善する事で省力化や作業効率向上に繋げ、『離職率や採用コストの削減、ES向上』を目指す。まずはその為の仕組み作りが必要。姿勢を数値化する三次元測定AIカメラと作業頻度の係数化により、弊社独自で「作業負荷度数」という数値を考案。
10:10 ~ 10:30	③当社の熱中症対策～従来の「熱中症は作業者個人の問題／対策が受け身」意識を変える (株)大林組 本社安全本部建築安全管理室 室長 正田 耕司	経営トップからのテーマ【熱中症の撲滅】～現状を把握し、それまでの取組みの分析では①熱中症は個人の体調の問題、災害の認識の不足②対策が受け身になりがち、の全体像が診えた。この弱点改善のため「2024年度熱中症対策要項元年」から、全国の現場で本気の取組を実施した。
10:30~10:40 休憩		
10:40 ~ 11:10	特別報告 最近の労働衛生に関する動きについて 厚生労働省 労働基準局 安全衛生部 労働衛生課長 諸富 伸夫	職場における労働衛生対策は、労働者の高齢化や女性活躍等を受けて大きく変化している。メンタルヘルス対策や治療と仕事の両立支援、労働安全衛生法に基づく一般健康診断の検査項目や女性特有の健康課題への対応など、労働衛生行政の現状を紹介する。
11:10 ~ 11:30	④重篤な「熱中症ゼロ」に向けた取組み 大鉄工業(株) 安全・企画推進本部安全推進部 主任 松原 正英	当社は鉄道の保守工事を行っており、夏期の日中作業は陰になる場所が少なく、非常に過酷で熱中症のリスクが極めて高い環境下での作業になる。過去には重篤な熱中症が発生したが、現在は発生していない。この重篤な熱中症を抑え込んだ取組みについて報告する。
11:30 ~ 11:50	⑤自前で展開する普通救命講習 (株)ダイフク 滋賀事業所 安全衛生管理本部 安全推進部 滋賀グループ 中森 勇太	当社は「仲間を誰一人失わせない」決意のもと、普通救命講習に取り組んでいる。従来、消防署から講師を招き入れ開催していた講習から、従業員自らが講師となり、自分たちの熱い想いで教展展開する「当社独自の活動」について報告する。

化学物質管理

労働衛生管理

札幌大会 図書・用品販売のご案内

大会のお土産にも

◆中災防のお勧め図書!!◆

最近の労働衛生対策がわかるハンドブック!!

労働衛生のしおり 令和8年度 【定価 880円】

安全に働き続けるために今できること

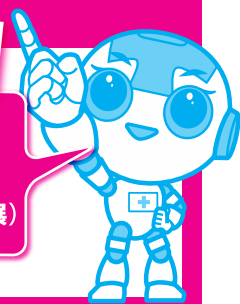
エイジフレンドリー時代のロコモ予防実践ガイド 【定価 660円】

リーダー向け研修／産保スタッフの実務に役立つ!

働く女性の健康支援 【定価 715円】

すべて
1割引きで販売中!

札幌コンベンションセンター
(9/17~18)、
つどーむ (9/16~18 緑十字展)



◆仕事猫グッズ、新商品も登場!!◆

NEW

・Pockepa
・ぼけっトイレ

ポケットサイズ
防災用品



仕事猫も
来場!



人気
商品

・クリアボトル (青、緑)
・吸水マルチポーチ
・手ぬぐい
・サコッシュ
・安全衛生手帳 (仕事猫)



労働衛生管理活動分科会

11:50 ～ 12:20	特別報告 「全国衛生管理者協議会事業検討委員会」の活動報告と協議会における活動事例の共有 全国衛生管理者協議会 事業検討委員会 委員長 伊藤 伸也	事業検討委員会では、ここ数年、衛生管理者及び会員となる協議会を対象に実態調査の実施と報告書作成、能力向上教育用テキストの改訂など種々活動に取り組んできた。衛生管理者への支援について、各地区協議会では新たな切り口を模索し、取り組み始めており、その一端を紹介する。
12:20～13:10 昼休憩50分		
13:10 ～ 14:10	鼎談 企業におけるウェルビーイング経営とは何か、どう進めるか (一財) 淳風会 代表理事 理事長 川上 憲人 (一社) 社会的健康戦略研究所 代表理事 浅野 健一郎 (株) 島津製作所 人事部健康・安全センター健康経営グループ 主任 春藤 行敏 従業員のウェルビーイングを向上させる企業価値の向上につなげる「ウェルビーイング経営」に関心が高まっている。この鼎談では、ISO25554ウェルビーイング規格、労働衛生機関からの提案、実践企業からの報告をもとに、企業におけるウェルビーイング経営の考え方、進め方について考える。	
14:10～14:20 休憩		
14:20 ～ 14:40	⑥ 海外90拠点の健康管理DX活用による受診率100%と事後措置迅速化 トヨタ自動車(株) 本社 安全健康推進部 健康推進室 海外勤務支援G 榎島 ちえ	2,000名を超える海外出向者に年1回の健診受診を義務付けている。拠点人事協力のもと、結果提出から事後措置までをDX化し、健康状態の早期把握と迅速かつ適切に対応できる環境を整備した。併せて担当保健師の膨大な作業時間を削減できた。今回は、その活動内容を紹介する。
14:40 ～ 15:00	⑦ 組織の見直しに伴う継続的な安全衛生体制の構築について 東日本旅客鉄道(株) 八王子保線設備技術センター 主任 小嶋 祥太	組織見直しにより、五職場が統合し百人規模となることが活動の契機である。安全衛生委員会設置に向けて職場横断ワーキンググループを中心に、法令順守を重点に準備を進めてきた。産業医を交えて定期的な意思疎通が可能となり、管理者と社員双方の当事者意識が向上した成果を得た。
15:00 ～ 15:30	特別報告 有害業務管理でのヘルスサーベイランスの潮流と新戦略 (独) 労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所 化学物質情報管理研究センター 化学物質情報管理部長 山本 健也	リスクベースへの転換期にある労働衛生・産業保健における「健康影響モニタリング」の考え方に基づき、化学物質のみならず他の職場有害要因においても、「リスクの低減による予防対策」および「起こり得る疾病を可能な範囲で予見すること」の重要性について概説する。

公益社団法人 日本保安用品協会 出版物のご案内

保護具着用管理責任者教育テキスト



2024年8月30日発行（第2版）
フルカラー A4版 203頁
定価：2,750円（送料別、消費税込）

本書は、呼吸用保護具・保護めがね・保護手袋及び防護服に関する基礎知識と使用する際に必要な事柄を分かりやすく解説しております。

保護具着用管理責任者養成時や当該責任者が職務を行ううえで役立ち得る内容となっております。

フィットテスト実施マニュアル



2025年8月31日発行（第2版）
フルカラー A4版 52頁
定価：1,210円（送料別、消費税込）

本書は、フィットテストの実施に向けて、フィットテストの実施者の方が理解しておかなければならない事項をまとめたものです。

フィットテストの実施にあたり考慮すべき事項をはじめとして具体的な実施方法について解説しております。



【日本保安用品協会HP】（左記QRコード）又は【中央労働災害防止協会・安全衛生図書・用品販売サイト】より購入可能です。（ただし、『フィットテスト実施マニュアル』については日本保安用品協会でのみ購入可能）



労働衛生管理活動分科会

15:30 ～ 15:50	⑧熱中症対策 全体への対策とハイリスク者への個別対応について ナガセヴィータ株式会社 人事総務部 保健師	井上 誠子	社内熱中症予防労働衛生教育インストラクターによる自社の状況を踏まえた講習、様々な専門職や部署・現場と連携した対応。熱中症ハイリスク者へは健康診断結果において基準値を設定した個別対応など、熱中症発生低減に向けた全体と個別への一連の取り組みについて発表する。
15:50 ～ 16:10	⑨一人ひとりの乗務員の労働安全性に対する意識改善等に関する取り組み 九州旅客鉄道(株) 門司車掌区 鉄道係	木戸 綾乃	2024年8月6日に当区の乗務員が体調不良により途中駅で乗務が出来なくなり列車を運休させご乗車のお客さまにご迷惑をお掛けする事象を発生させてしまった。今回、私たちはこの事象を受け、一人ひとりの乗務員の労働安全性に対する意識改善と設備改善に取り組んできた。



マネジメントシステム・リスクアセスメント分科会

会場 札幌コンベンションセンター 中ホール

マネジメントシステム・リスクアセスメント分科会 会場に
「ISO45001/JIS Q 45100認証取得の無料相談コーナー」開設！
 お気軽にご相談ください。

9月17日(木) プログラム(9:00開場)

9:30 ～ 9:50	①知恵を結集！高リスクレベル低減への挑戦 キヤノン(株) 下丸子本社 人事本部 安全衛生部	岩永 寛樹	自社基準であるリスクアセスメント管理基準が制定されて7年が経過。目標としていた洗い出し件数10万件を達成し、評価精度も年々向上している。次なる活動として、リスクレベル低減プロジェクトを始動。プロジェクトメンバーの知見とアイデアでリスクレベルを低減した事例。
9:50 ～ 10:10	②ヒヤリハットから学ぶ職場の安全～リスクアセスメントと共有で築く再発防止策～ JR九州電気システム(株) 熊本支店 チーフ	後藤 千里	ヒヤリハット取組みの重要性については理解しているものの、十分に共有出来ていなかったため、全件名に対するリスクアセスメントと分析を、生成AIを活用し、見える化、多くの件名を共有し、安全に対する感受性が高まり、相互の注意喚起や未然に事故の芽を潰す行動に繋がった。
10:10～10:20 休憩			
10:20 ～ 10:50	特別報告 ISO45001改訂のポイント ～どこが変わるの？ ISO45001 最終報告～ 中央労働災害防止協会 認証事業執行責任者 安全衛生マネジメントシステム審査センター所長 ISO/TC283日本代表エキスパート 齊藤 信吾		2024年からISO/TC283にて改訂作業が進められてきたISO45001は、2027年3月に発行される予定である。改訂作業に日本代表として参加した演者が、改訂版ISO45001で新たに追加された要求事項や主要な変更点について紹介する。
10:50 ～ 12:20	パネルディスカッション 改訂版ISO45001にどのように対応するか ～事業場が実施すべき準備と対策～ パネリスト (株)SUMCO 全社産業医 資生堂(株) 那須工場 工場長 ファシリテーター 中央労働災害防止協会 認証事業執行責任者 安全衛生マネジメントシステム審査センター所長 ISO/TC283日本代表エキスパート 司 会 中央労働災害防止協会 安全衛生マネジメントシステム審査センター副所長	彌富 美奈子 西田 美晴 齊藤 信吾 木村 隆賢	2027年3月に発行予定の改訂版ISO45001では、労働に関係するウェルビーイングの促進、多様性への対応、労働衛生に関する要求事項が新に追加されている。中災防でISO45001の認証を取得された事業場で、既にこれらのテーマに取り組んでいる2社の具体的な事例を紹介しながら、改訂版ISO45001への円滑な移行のために事業場が実施すべき準備や対応方法についてディスカッションを行う。



マネジメントシステム・リスクアセスメント分科会

12:20~13:20 昼休憩60分

13:20 ~ 13:40	③「危険カモ」リスク抽出システム構築 (株)神戸製鋼所 真岡製造所 第一製造部 冷延室 スタッフ 金井 柊	製造所の安全活動において、災害に繋がる可能性のある潜在リスクの抽出が不足しているという課題があった。これに対し、作業員視点と管理監督者視点で課題を整理し、DXを組み合わせる事で課題の解決を図り、リスク抽出件数の増加や抽出内容の精度向上を得た活動である。
13:40 ~ 14:00	④安全衛生と環境のシステム統合で実現する、効率的な安全安心マネジメント (株)デンソー 本社 安全衛生環境部 企画室 担当係長 宮川 希映	ISO45001取得を機に、長年運用してきたISO14001と統合し、重複を削減して運用・監査を一体化。効率化と負荷軽減を図り、安全・安心とコンプライアンスを強化し、スリムな仕組みで認証維持を日常業務に組み込むものである。
14:00 ~ 14:20	⑤リスクを許容範囲内に抑え込むための「協力会社と共に一斉にレベルアップ」の取り組み JR西日本電気システム(株) 安全推進部 課長代理 筒井 信道	JR西日本電気システムは主にJR西日本の電気工事を行う会社です。日々の作業において、リスクを許容範囲に抑え込むためのルールや取組みがたくさんありますが、ある項目をピックアップして1か月集中的に取り組む「協力会社と一緒にレベルアップ」という取組みをご紹介します。
14:20 ~ 14:40	⑥ストレージライン テレスココイル払い出し作業の安全化 JFEスチール(株) 西日本製鉄所(倉敷地区) 熱延工場 淵本 翔	熱延工場で発生する品質不良としてテレスコ(巻不良)がある。テレスココイルが発生した場合、約500℃のコイルにワイヤーロープを複数本掛け、クレーンによるオフライン作業となり火傷、吊荷落下など危険度の高い作業となる。今回、Cフックを導入し危険作業の排除に成功した。
14:40~14:50 休憩		
14:50 ~ 15:10	⑦ヒヤリハット共有の進化 ～ kintone導入と双方向コミュニケーションによる安全 東急電鉄(株) 運輸部 五反田駅 駅務係 尾高 太洋	Excel管理からクラウド型「kintone」へ移行し、入力・検索性を改善。双方向コミュニケーションを促す仕組みを整え、写真添付やタグ分類、コメント機能を活用しながら、気軽な共有と安全文化の醸成を進めていく。
15:10 ~ 15:30	⑧リスクアセスメントにおける安全対策レベル及び潜在リスクの可視化PJ 日清食品ホールディングス(株) 生産部 係長 薬師寺 雄樹	RA、安全対策と作業員教育を行う中で、①RA結果の理解に力量が必要 ②非定常時にカバー等を外して危険源に近づくリスクが伝わらない というジレンマを抱えていた。そこで、安全対策後リスク値と潜在リスク値の色ラベルを貼り、直感的に機械の危険度が分かる工夫を行った。
15:30 ~ 15:50	⑨ISO45001で進化する自律×連携の組織づくり ～いきいき職場の実現に向けて～ マツダ(株) 安全健康防災推進部 主幹 篠崎 敏之	ISO45001を参考に、部門が自律的に課題を捉え、全社がサポート・連携する仕組みへ進化。安全・衛生・健康・防火防災のバランスを重視し、規程や体制も柔軟に見直ししながら、いきいき職場づくりを全社で推進している。
15:50~16:00 休憩		
16:00 ~ 16:20	⑩福島第一原子力発電所における「作業点検」によるリスクアセスメント強化の実施 東京電力ホールディングス(株) 福島第一廃炉推進カンパニー福島第一原子力発電所 防災・放射線センター 防災安全部 部長 高階 悟志	福島第一原子力発電所において、2023年下期に身体汚染を含む労働災害などが連続したことを受け、「危険源の特定」と「作業関係者のコミュニケーション」を主としたリスクアセスメント強化を実施。大幅な災害減少となる成果が得られたことから、その取り組みについて報告する。
16:20 ~ 16:40	⑪作業計画精度向上の取り組み ～ safety-IIへの挑戦 (株)JR西日本レールテック 中国支店米子調査監理センター 技術係 大塚 隼人	作業計画精度向上の取組としてsafety-IIへの挑戦を開始した。safety-Iで培われたリスク把握能力と低減策の実行は継承しつつ、「なぜ成功に至ったのか」の秘訣に迫るsafety-IIの理解を深め、作業計画精度向上に取り組んだのでその内容について報告する。



マネジメントシステム・リスクアセスメント分科会

16:40 ～ 17:00	⑫車両整備で使用する製品に含まれる「化学物質のリスクアセスメント」の実施について 京成電鉄(株) 鉄道本部車両部整備課 課長補佐 佐渡谷 敏和	車両整備では様々な化学物質が使用されているため、リスクアセスメントを実施している。現場で作業する係員に対し、化学物質の使用状況等のヒアリングを行う事で、使用状況の把握及び状況に応じた管理表を作成した。現場に掲示する事により何時でも確認できる状態にした。
---------------------	--	--

9月18日(金) プログラム(9:00開場)

9:30 ～ 9:50	⑬特殊災害リスクを抱える職場の安全性向上活動 ～劇毒物の危険要因から仲間を守る知恵 日産自動車(株) 横浜工場 パワートレイン・EVコンポーネント生産技術開発本部 品質技術開発部 企画グループ 工長 小田 裕介	物理試験室が抱える特殊災害リスクについて、組員の意識・現状を調査した。なぜ特殊災害リスク意識が低かったかを確認し、仲間を守るために足りないことを分析した、新しい取り組みを紹介。
9:50 ～ 10:10	⑭樹木伐採作業における労働災害のための安全文化醸成とリスクアセスメントの効果 東日本旅客鉄道(株)新潟電力設備技術センター 安全グループ 主任 丸山 洸	当事業所では支障木伐採で過去3年間に4件の労働災害が発生し、抜本的対策が急務であった。再発防止対策として現場で実際に従事する社員を中心にリスクアセスメントと熟練者による訓練を行い、効果を実証するとともに主体的に安全行動を実践できる安全文化醸成に取り組んだ。
10:10 ～ 10:30	⑮衝突リスク低減活動 ～安全性と効率化の両立～ (株)小松製作所 湘南工場 生産本部湘南工場生産部製造第一課工務センタ 柿島 裕司	部品・製品の在庫増加に伴う作業者同士や保管品など物との衝突リスクに対し、従来の三現主義に基づくデータ解析と、初めて導入したデジタル機器による調査に挑戦。作業エリアの3S徹底や通路幅の設定を行い、安全かつ効率的なレイアウトを構築した活動報告である。
10:30 ～ 10:50	⑯リスクアセスメント実施によるアルカリ洗浄作業の安全性向上 川崎重工業(株) 明石工場 航空宇宙システムカンパニー 航空エンジンディビジョン エンジン生産総括部 明石製造部 明石工作二課 班長 松村 和起	本活動は、災害をメカニズムから分析し、新たな視点・独自の抽出方法で不安全要因を可視化し、潜在リスクを低減した事例である。ハード・ソフト両面に対策を講じ、重量物を持つ動作レス化・液飛散防止・接触事故防止を実現し、安全性と作業効率を大幅に向上させる成果に達した。
10:50～11:00 休憩		
11:00 ～ 11:20	⑰高所作業における安全対策確立への挑戦 東急電鉄(株) 鉄道事業本部 車両部 元住吉検車区 主任 飯沼 健太郎	鉄道車両の屋根上での作業は高所作業であり常に危険を伴います。私たちは安全に作業を行うために屋根上点検通路の整備やカメラでの画像解析点検の実施、また転落制止用器具を着用してスムーズに作業ができる設備導入の取り組みについてご紹介いたします。
11:20 ～ 11:40	⑱さて、困った!どうしよう! 労働安全衛生マネジメントシステムの構築 クミアイ化学工業(株) 本社 サステナビリティ推進部 レスポンシブル・ケア推進課 石橋 朋剛	全社的な労働安全衛生マネジメントシステム構築のリーダーを任されたことをきっかけに、ISO未経験部門を巻き込む難しさや、決められないといった課題に直面した。リーダーとして、それらを乗り越えるために行った取り組みや、困ったこと・悩みなどのリアルな体験談を報告する。
11:40 ～ 12:00	⑲そのリスク評価、ホントに網羅的? 安全・環境・事業を貫くEHS-RA運用術 中外製薬工業(株)藤枝工場 総務グループ 化学物質取扱いマイスター 滝本 大介	事業活動においては安全衛生リスクだけでなく、安全／環境／ビジネスのリスク評価(EHS-RA)や法的要件の化学物質RA(CREATE-SIMPLE)、自社独自の安全基準(封じ込め)など複数の要求される。これらを連携した網羅的なRA事例を紹介する。

札幌コンベンションセンターにて
「中災防 図書・安全衛生用品販売 即売コーナー」開設!
 安全衛生図書・用品を1割引で販売します。



ダイバーシティ等分科会

会場 札幌コンベンションセンター 中ホール

9月18日(金) プログラム(9:00開場)

12:50 ～ 13:50	講演 AI時代の安全と多様性を問い直す はこだて未来大学 名誉教授／ NPO学び足しデザイン工房 代表 美馬 のゆり	AIの活用が広がる中、安全のあり方はこれまでと同じでよいのか。多様性は属性の違いにとどまるのか、それとも視点や経験、価値観の違いまで含むのか。現場の声に耳を傾けながら、AIと人が協働する安全の姿を参加者と共に考え、対話を重ね実践を見直す機会としたい。
13:50 ～ 14:10	① 終わりになき現場D&Iへの推進 ～誰もが安心安全に働ける入出庫作業拡大への挑戦～ (株)小松製作所小山工場 エンジン製造部組立課第四組立センタ 班長 大久保 芳樹	弊社全体で取り組むD&I活動の推進に向けて障がいのある作業員への更なる職域拡大を目指し、聴覚障がい者特有のリスクを織り込み新たに作成したWリスク評価表を元に、彼らの目線に立ち全員で問題点やリスクの洗い出しをする事で、誰もが安心・安全に働ける職場改善事例である。
14:10 ～ 14:30	② ダイバーシティ推進による災害防止と 対話強化(外国人安全衛生管理) (株)久居LIXIL製作所 加工課 班長 松岡 賢太	外国人労働者のダイバーシティを活かし、安全衛生管理を整備。多言語教材・母国語KYT・監督者教育により、災害防止とコミュニケーション向上の事例を発表します。
14:30～14:40 休憩		
14:40 ～ 15:00	③ 安心・働きがいの両立により多様な人材 が活躍できる製造現場の実現 トヨタ自動車九州(株) 車体部第1ボデー課 工長 村田 隆	日本製造業の共通課題として高年齢化と労働人口減少がある。将来の課題解決に向け取組を推進。環境面では重筋作業廃止に向けた自動化、良質な休憩時間確保に向けたリノベーション、人の面では、男性主体の職場脱却に向けた女性活躍取組、社外戦力定着率向上を推進。
15:00 ～ 15:20	④ 外国人材による外国人のための改善活動 (株)真岡製作所 栃木千塚工場 製造本部栃木千塚工場 製造本部長兼栃木千塚工場長 稲永 孝	当社は鋳造業で人材確保のため技能実習生、特定技能を受け入れ現在約100名が在籍、全従業員の3割を占める。そんな中、外国人改善チームを発足、自職場の安全、品質などの問題を年間60件の改善目標をたて、自分たちにとってもより良い職場作りの活動を推進したので紹介する。

壁に貼るだけ！ ミラーで衝突防止・ヒヤリハット対策

FFミラー通路

フラットなのに
視野が広いミラー

- 目の高さに貼ることで、自然と死角を確認できます。
- 工事不要、電源不要でランニングコストゼロ！
- 通路の曲がり角やT字路、階段の踊り場などの死角を解消。安全通行をサポートします。

FFミラーシリーズ商品紹介・資料請求はHPから▶



死角に気づき

KomyMirror

コミー株式会社

〒332-0034 埼玉県川口市並木1-5-13
TEL 048-250-5311 <https://www.komy.jp>

無料貸出制度をご利用ください
ご購入前にミラーの見える範囲や設置位置
の確認ができます。お申込みはコチラ▶





ダイバーシティ等分科会

15:20 ～ 15:40	⑤ 高齢者の働き易さを変えた、周りを巻き込む活動へ ～大変な時は大きく変わる時～ テイケイ気化器(株) 経営企画部 経営企画課1グループ	前田 真吾	高齢化が進み技術の継承も難しく、会社に残って頂く為、補助金を利用して高齢者の働きやすい環境を実施。当初は危険個所を洗い出し地道に対応したが、一緒に働く若者も意見を出し合い、会社一丸となって改善活動が活発に進んだ。会社が大変な時は、大きく変わる時を実感した。
15:40 ～ 16:00	⑥ 警備の力で地域を元気に！ 女性が輝く「新しい警備のカタチ」 (株)安信警備 役員 取締役	奥川 美香	限界集落が点在する地域で、警備員の人手不足に悩んでいるため、あの手この手で何とか雇用を確保したいと考えているうちに、女性の職場として大きな可能性を秘めた職種なのではないかと思ひ応募した。



機械・設備等の安全分科会

会場 札幌コンベンションセンター 小ホール

機械・設備等の安全分科会／DX等分科会 会場に
「機械安全等 無料相談コーナー」開設！
 お気軽にご相談ください。

9月17日(木)

プログラム(9:00開場)

9:30 ～ 9:50	① 重機昇降時の転落防止対策について (株)大林組 北電苫東造成工事事務所 工事係	山本 健太	キャタピラを有する重機に昇降する際は、一般的にキャタピラ側面に設置されている足掛用ステップとキャタピラを利用して昇降を行うが、昇降設備としての安全性は不十分である。そこで、重機昇降時の安全性確保を目的として、設備の改良と昇降方法のルール化を行った。
9:50 ～ 10:10	② 浸漬はんだ付装置 酸化物除去改善 ～もっと良い環境をもっと良い未来の為に～ (株)デンソー 幸田製作所 モビエレ製造1部 電子2工場	島田 夏菜	自動車電子部品で使用するはんだ付装置では、はんだ付け時に酸化物が発生する。その除去作業は約260℃の高温で行う、きつい・汚い・危険の3K作業である為、メンバー一丸となり、関係部署やメーカーと協議し、気軽・きれい・効率的の新3Kに変革した改善である。
10:10 ～ 10:30	③ 機械設備導入・更新時の安全評価見直しについて 川崎重工業(株) 西神戸工場 企画本部 人事部 安全福祉課 係員	柳 潔美	機械・設備は設置段階で本質安全化や工学的安全対策等を講じることが望ましく、残留リスクが存在する場合は適切な対策を講じる必要がある。重篤な災害の発生を機にそうした課題へ対応すべく、生産技術部門、製造部門と連携して安全評価に関する制度の見直しを行った。
10:30 ～ 10:50	④ 人はミスすることを前提で考えた吊り上げ運搬の安全対策 ダイキン工業(株) 淀川製作所 特機事業部製造部生産技術グループ	諸石 弘司	ヒューマンエラーに着目したリスクアセスメントにより顕在化した、電動ホイストと把持治具による属人的運搬作業の挟まれ・落下リスクに対し、人の確認をセンサーで代替し、安全条件を満たす場合のみ動作を許可する制御システムを構築したリスク低減取り組みについて報告する。
10:50～11:00 休憩			
11:00 ～ 12:00	講演 ロボットと機械安全 名古屋大学 名誉教授	山田 陽滋	ロボットが、人間との接触限界を与える重篤度規範はヒトの痛覚耐性であると、講演者が検証データに基づき提案して四半世紀が経過した。近年はこれをリスク観点で捉え、第二の規範として内出血耐性について研究し、規格化まで行ってきた。本講演ではそれらの内容について紹介する。
12:00～12:50 昼休憩50分			



機械・設備等の安全分科会

12:50 ～ 14:00	事例紹介 安全エキスパート育成で切り拓く既存機械安全化と休業度数率低減の実現 日本精工(株) 生産本部 EHS推進室 室長 原 謙一郎 安全確認型システム導入と動力源遮断活動の展開 日本軽金属(株) 環境保全・安全衛生統括部 安全衛生担当部長 渡邊 寛幸 日本軽金属(株) 名古屋工場 冷延課 ロール整備班 組長代理 喜多 健次 食品生産機械の安全設計におけるグローバルスタンダードを目指す レオン自動機(株) 開発設計部 技術担当部長 大貫 豊純	機械設備の安全化を実現するカギ、それは「機械の包括的な安全基準に関する指針」である。当社では、安全技術エキスパートの育成を柱とした体制強化で、課題であった既存機械設備のリスク低減と休業度数率低下を実現した。確かな成果につながった取り組みを事例とともに紹介する。 弊社では、機械による災害の低減のため『技術で安全を構築する』ことを目的に、『安全確認型システム』を導入し、安全技術者の育成を進めてきた。事業所での展開として、名古屋工場が『動力源遮断活動』として、現在に至るまで計画的に取り組んだ事例と合わせて紹介する。 弊社では世界各国に向けて食品生産機械の製造販売を行い 各国の規則を遵守した安全設計を行っているが、特に日本国内との安全設計の統一が図れない。構造や部品を共通化するためにもシングルスタンダードの実現を目指しており、取り組みとリスクアセスメント内容を紹介する。
	表彰事業場 第2回機械安全推進表彰式 授与：日本精工(株) 日本軽金属(株) レオン自動機(株)	中災防が、機械安全に積極的に取り組み他の事業場の模範となる取り組みを実施している事業場に対し、表彰状を授与することにより機械安全の普及促進を図ることを目的とする。
14:00～14:10 休憩		
14:10 ～ 14:30	⑤ コンテナ扉固定治具の開発と安全対策強化による再発防止の取り組み (株)NAAファシリティーズ 工務部 主任 八巻 佳史	廃材投棄作業中の事故を受け、産廃積み込み作業を計画に組み込み、リスクアセスメントや手順周知を徹底するものである。コンテナ扉固定用治具を開発・特許取得し、安全性向上と再発防止を図るとともに、現場の安全意識向上を実現するものである。
14:30 ～ 14:50	⑥ ポジティブ安全学に基づいた安全・安心の定量評価に関する研究 ジー・オー・ピー(株) 安全・安心技術研究センター 所長 清水 尚憲	製造業の作業現場で活用されている可搬式作業台の開発において、従来のリスクアセスメントおよびリスク低減策に加えて、Well-beingに対する主観評価を行った。その結果、使用段階で残留リスクレベルが維持される可能性についての評価が可能となった事例を紹介する。
14:50 ～ 15:10	⑦ 特高接続部エックス線検査の安全性向上に向けた研究 東海旅客鉄道(株) 新幹線鉄道事業本部 浜松工場 車体センター 車両技術係 青木 孝太	新幹線車両の屋根にある高圧ケーブル接続部の地絡により、架線停電が発生し、2時間以上運転を見合わせた。再発防止のため、ケーブル接続部のX線検査を行うこととなった。X線検査を安全に行うために、漏洩X線の遮蔽構造の開発および作業者の被ばく量管理体制を確立した。
15:10 ～ 15:30	⑧ 焼却灰コンベア脱輪復旧作業解消の取り組み J&T環境(株) 技術本部 設備部 鶴見設備室 部員 阪本 真里	焼却炉から出る灰(燃え殻)を搬送するチェーンコンベアでは、灰塊がチェーンとスプロケットの間に噛みこむことによる脱輪が頻発し、開口部のある装置内での復旧作業を余儀なくされていた。そこで駆動部を改造することで脱輪を防止し被災リスクを解消した。
15:30～15:40 休憩		
15:40 ～ 16:00	⑨ センサー活用による保守用車の追突事故防止と制動管理改善 (株)JR西日本レールテック 山陽新幹線支店 機械部 技術リーダー 新田 友和	保守用車の追突事故防止を目的に10tトコの制動系管理改善を検討。保守用車被牽引車両のブレーキ空気圧確認が困難な課題に対し、センサー付圧力計とLEDライトを導入し適正圧を視認可能とした。これにより空気圧監視を容易化し点検精度向上と保守用車安全運行をより強固とした
16:00 ～ 16:20	⑩ ロールメンテナンスの安全強化！～ヒューマンエラーにも対応した安心作業～ JFEスチール(株) スチール研究所 福山地区 圧延・加工プロセス研究部 安田 宏美	圧延ロールへの防錆油の塗布ムラが原因で、錆が多々発生していた。これに対し、作業者が防錆油を均一に塗布しやすいように、圧延ロールを手動で回転できる架台を製作した。作業時に、安全カバーを取り付けないと回転しない機構とすることで、挟圧リスクゼロを達成した。



機械・設備等の安全分科会

16:20 ～ 16:40	⑪安全文化を育む墜落防止対策の取り組みについて 西武鉄道(株) 鉄道本部 工務部 小手指保線機械所 副所長 岩永 文弘	小手指保線機械所では、労働災害の中でも発生件数の多い、「墜落・転落」災害に着目し、過去の墜落災害防止対策を振り返るとともに、保線機械に関する安全文化を育む新たな墜落防止対策を実施し、墜落災害リスク軽減に繋がった。本稿ではその取り組みについて発表する。
16:40 ～ 17:00	⑫協調安全が現場を変えた：高所作業の挟まれ災害3年間の軌跡 大和ハウス工業(株) 本社 技術本部 安全統括部 課長 森 朋仁	3年前に同大会で発表した、挟まれ防止機能付き高所作業車の導入とSafety2.0取得後3年間の運用データを分析し、協調安全の実効性と挟まれ災害低減への寄与を検証することを目的とする。



DX等分科会

会場 札幌コンベンションセンター 小ホール

機械・設備等の安全分科会／DX等分科会 会場に
「機械安全等 無料相談コーナー」開設！
 お気軽にご相談ください。

9月18日(金) プログラム(9:00開場)

9:30 ～ 9:50	①車両運行日誌・酒気帯び確認アプリ導入で実現する安全管理の効率化 北海道電力ネットワーク(株) 配電部研究開発グループ 主任 伊澤 侑馬	紙管理による酒気帯び有無確認や車両運行日誌の記録不備、突合確認の煩雑さを解消するため、スマートフォン等で簡単に入力可能な自社アプリを開発。突合処理の自動化・管理者による遠隔承認・データの一元管理・過去記録の検索機能など、業務効率化と信頼性を両立した。
9:50 ～ 10:10	②転倒リスクを可視化したストップ転倒災害への取組 味の素食品(株) 川崎工場 総務・企画課 佐藤 浩	本報告は毎年、転倒による休業災害が発生し撲滅できず、何とか従業員自身の転倒リスクを数字で可視化したいと考え、事業所全体で転倒リスク年齢測定会の開催に至り、皆で転倒リスクについて考え、予防への関心が高まった結果、転倒休業災害「ゼロ」を達成した活動紹介である。
10:10～10:20 休憩		
10:20 ～ 10:50	特別報告 伝統産業で進めるDX ～造り酒屋は生き残れるのか!～ 田中酒造(株) 代表取締役社長 岡田 栄造	創業120年超の歴史は絶え間ない変化の歴史。今後も伝統は守り続けながらも、DXの取り組みはもちろん、経営者が先頭に立って会社全体が常に新しいことにチャレンジして、自ら変化することを恐れず、2049年創業150年を目指す。
10:50 ～ 11:10	③AI活用によるリスク抽出精度の向上 京セラ(株) 鹿児島川内工場 環境安全部 川内環境安全部 安全防災課メンバー 今西 凌介	当事業所ではリスクアセスメントにおけるリスク抽出精度の向上が課題であった。実施者への教育・認定制度化等、様々な取り組みを試みてきたものの抽出精度の個人差が大きいのが実態である。そこで、リスク抽出に際しAIを導入させることによる抽出精度の底上げに取り組んだ。
11:10～11:20 休憩		
11:20 ～ 11:40	④高騒音下でも音声通話可能なデバイスの開発及び導入に向けた取り組み ENEOS(株) 中央技術研究所 技術戦略室 事業開発推進チーム 主査 門脇 正天	当社製油所では、85dBA以上の騒音管理区域が数多く存在し、聴覚保護具の装着が必須な現場スタッフの音声周囲の騒音に紛れて口頭コミュニケーションが成立しない場面が発生する。全製油所にヒアリングを実施し現場ニーズを抽出し、それらを反映させたデバイスを開発した。

機械・設備等

DX等



DX等分科会

11:40 ～ 12:00	⑤能登半島・国道249号の災害復旧に先端技術で挑む「迅速で柔軟に・安全に！」 (株)大林組 北陸支店 能登半島災害復旧工事事務所 所長 西中 淳一	[なんてすさまじい現場だろう] 1月6日被災地入りし、そのダメージの大きさに圧倒された。激しい土砂崩落、路面陥没、隆起した国道249号。危険な被災現場・求められる迅速性・復旧作業の安全確保・これら相矛盾する現場条件をこれまで蓄積した知見と先端技術で乗り越えた。
12:00 ～ 12:20	⑥ドローンを活用した構造物検査の安全対策について (株)JR西日本レールテック 金沢支店 金沢調査監理センター 技術係 山田 且	弊社では構造物検査でのドローン活用による、検査品質や生産性の向上を進めている。このなか、北陸新幹線に近接した飛行での列車運行保安度の確保や検査記録システムとの連携を進めたことでドローン活用検査が拡大し、安全衛生上のリスク低減につながった内容である。
12:20～13:10 昼休憩50分		
13:10 ～ 13:30	⑦スポンジチタン縮分作業の自動化 東邦チタニウム(株) 茅ヶ崎工場 技術戦略本部 分析センター 茅ヶ崎分析検査グループ 担当 内藤 友康	弊社製品であるスポンジチタンの製品評価のために、JISで定められた方法を用いてサンプルを採取している。この作業では、重量物を持ち上げる操作があり、腰痛リスクが高い。今回、ロボットによる自動化により、腰痛リスク防止を図ったため、その取り組み内容について報告する。
13:30 ～ 13:50	⑧若手が挑む！安全パトロールのアプリ管理 (株)サンゲツ 中部ロジスティクスセンター ロジスティクスセンター統括室 中部ロジスティクスセンターⅡ 担当 増田 眞子	これまで紙媒体で管理していた安全パトロールを、入社4年目安全担当者の視点でアプリ開発を進め、資料作成から進捗管理までを1つのアプリで行えるようになり、安全活動の活性化に繋げることができた。
13:50 ～ 14:10	⑨没入型安全教育システムによるリスクレベル低減活動 日産自動車(株) 追浜工場 工務部 生産課 湯浅 柊司	2021年に発生した動力車と人の接触事故を契機に、3本柱の安全活動を継続的に推進し、1500日間の無事故を達成した。今年度は更なる安全性向上を目的にリスク低減を目標に掲げ、没入型安全教育システムによる体感訓練で未達課題を改善し、目標を達成した事例内容である。
14:10 ～ 14:30	⑩ウレタン加工工場で安全DXを3年間実施した成果とウェルビーイングの可視化について (株)セーフアップ 代表取締役 正木 秀樹	作業者のスマートフォンに安全衛生等に沿って構成したチェックリスト送信して、現場の安全情報を収集するアプリを3年運用した。試行錯誤して、短時間で簡単に作業者の危険予知に役立つ「新しいKY活動」を確立。安全意識、職場改善、ウェルビーイングで無事故継続900日達成。
14:30～14:40 休憩		
14:40 ～ 15:00	⑪生成AIを用いた労働災害情報の活用 AGC(株) 環境安全品質本部環境安全部安全衛生チーム マネージャー 奈良 拓真	自社グループの業務災害情報をグローバルに収集してきたが、分析は件数や事故の型など定型データの集計にとどまっていた。生成AI導入で災害発生状況など自由記述の非定型データの要約・意味類似検索が可能となり、知見獲得と予防策立案の面で成果が上がることを期待している。
15:00 ～ 15:20	⑫新ヒヤリ・GJ報告とバイタルセンサーによる安全文化の再設計 (株)堀口組 土木部 常務取締役 湯浅 勝典	本研究は、豪雪地域の除雪現場において、“気づき”と“見える化”を軸に、AI・IoT・バイタルセンサー・新ヒヤリハット・グッジョブ報告を連携させた次世代安全マネジメントモデルを構築し、安全文化の再設計と社会実装に向けた展開を図るものである。
15:20 ～ 15:40	⑬Microsoft365を用いた安全衛生チェックシートアプリの作成と運用 (独) 国立高等専門学校機構 函館工業高等専門学校 技術教育支援センター 技術専門員 松井 春美	点検者の入力負担と提出負担を軽減し、管理者の確認作業も軽減することを目指し、Microsoft365を用いて安全衛生チェックシートアプリを作成した。週1回の点検日にアプリのリンクを通知することによって、実験室等の点検を促す取り組みについて報告する。
15:40 ～ 16:00	⑭仙台製造所における熱中症対策への取り組み JFEスチール(株) 仙台製造所 安全健康環境防災室 保健師 小野寺 梓	鉄鋼業は鋼の製造現場は暑熱職場があるため過去から熱中症対策が課題となっている。そこで、WBGT測定による職場状況管理、仕事前のフェイスチェックによる体調管理、暑熱環境改善における施策、熱中症対策ドリンク提供方法の改善、等を積み上げてきた成果を報告する。



食を支える産業の安全を考える分科会

会場 札幌コンベンションセンター 107&108会議室

9月17日(木) プログラム(9:00開場)

9:30 ~ 9:50	①若手にも響く!共創型安全研修という新たなカタチ (株)明治 品質本部安全マネジメント部	岡田 隼一	社員の安全意識を高めるため、従来型研修を刷新し、受講者と共に創り上げる双方向・体験型の研修を提案。若手にも響く共創型スタイルで、現場に生きる安全文化を育む取り組みと成果を紹介する。
9:50 ~ 10:10	②入社2年未満対象!現場現物にこだわった安全教育で労災ゼロを目指す! 有楽製菓(株) 豊橋夢工場 生産三課 係長	佐野 貴紀	安全教育について様々な取り組みを行っている中で、実際に発生した労災を分析した結果から入社歴2年未満を対象とした安全教育の必要性が判明した。これまでの取り組みよりも対象を絞った分、内容を濃く、座学ではなく現地現物での教育に拘った教育内容を紹介する。
10:10 ~ 10:30	③労働安全衛生法規等に基づく教育の内製化のコツ よつ葉乳業(株) 安全管理部	中西 弘和	2018年5月準備→講習開始。以降内製化を進め8科目まで増加。ポイント:「教育ニーズに応え、熟練講師によるピンとくる話、皆受講による底上げ効果実感」。メリット:「社内事例による理解度向上」。事例選定・紹介方法の検討は苦労を要するが、「大変わかりやすい」と好評。
10:30 ~ 10:50	④千歳近隣企業安全交流会の企画と実施 キリンビール(株) 北海道千歳工場 エンジニアリング環境安全担当 シニアスタッフ	伊阪 正行	安全活動はマンネリ化しやすく新鮮味のない内容に陥りやすい。そこで近隣企業に積極的に声掛けし2023年以降企業間安全交流会を開催し、お互いの工場を見学し合い、好事例の横展開や新たな気付きを得る場を創出してきた。2026年2月には合同発表会も開催予定。
10:50~11:00 休憩			
11:00 ~ 11:20	⑤2本立ての労働安全衛生管理体制による働く職場の安全・安心の実現 山崎製パン(株) 札幌工場 人事課	武井 彬人	従業員の声を反映させた安全活動、また役付者の視点で災害の未然防止を図る職場改善を行い、2本立ての労働安全衛生管理体制とし推進している。機械設備や生産ラインの問題・課題を放置しない体制を構築すべく、安全日誌やパトロール、研修を通じた活動で安全安心な職場を目指す。
11:20 ~ 11:40	⑥水産加工食品業における安全管理活動(初歩的) (株)阿部長商店 大船渡食品 総務部総務課 課長	山崎 恭一	水産加工業は、昔から3Kの業界といわれてきた。しかし、今は作業者に負担がかからない、そして衛生管理が行き届いた環境で作業が行われている。それでも、労働災害の発生は後を絶たない。労働災害発生を防止するために、当社が取り組んでいる初歩的な安全活動の紹介。
11:40 ~ 12:10	特別報告 機器導入から始める「労災ゼロ」の工場経営 石屋製菓(株) 取締役 (株)GOURMAND ISHIYA 代表取締役 十勝製館(株) 代表取締役	柳澤 和宏	食品工場の機械設備は人と距離が近く労災発生の機会や頻度が高いが、その仕組みや機工の改善を購入段階で行うことで頻度やリスクを大きく減らすことができる。当社が重要視する機械設備「選定時」と「購入時」におけるポイントを実例を用いて紹介する。
12:10~13:10 昼休憩60分			

DX等

食を支える産業



食を支える産業の安全を考える分科会

13:10 ～ 14:40	シンポジウム	未来へつなぐ農業と農作業安全 基調講演 農作業安全の推進に関する取り組みについて 農林水産省 農政局 技術普及課 生産資材対策室長 美保 雄一郎 パネルディスカッション 座長 農業ジャーナリスト／フリーアナウンサー 小谷 あゆみ パネリスト J Aオホーツク網走青年部 部長 丸山 雄平 国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 農業機械研究部門 農作業安全研究領域 予防安全システムグループ グループ長 紺屋 朋子 株式会社 Kalm角山 代表取締役 川口谷 仁
14:40～14:50 休憩		
14:50 ～ 15:50	講演	スマート農業と食料安全生産の実現に向けた研究紹介 北海道大学 大学院農学研究院 ビークルロボティクス研究室 楊 亮亮 准教授
15:50～16:00 休憩		
16:00 ～ 16:30	特別報告	北海道の農作業をもっと安全に (一社)北海道農業機械工業会 専務理事 竹中 秀行
16:30 ～ 17:00	特別報告	養豚現場における労働安全と衛生管理 おおやファーム(株) 取締役総務部長 村上 英恵



安全管理活動分科会②

会場 札幌コンベンションセンター 107&108会議室

9月18日(金) プログラム(9:00開場)

9:30 ～ 9:50	①過去の災害事例から学ぶ災害未然防止活動 トヨタ自動車北海道(株) 第2ユニット製造部第24製造課 グループリーダー 齋藤 悠太	社内で発生した過去5年分の災害事例を5W1Hで分析し、繰返し起こる災害要因を抽出。危険の見える化を目的にFMEA表を作成しRPNで優先度を評価。物的対策により危険源を排除し災害の未然防止に貢献。未然防止の意識をメンバーへ浸透させ安全職場を醸成した取組み。
9:50 ～ 10:20	特別報告 北海道における労働災害の動向について 北海道労働局 労働基準部安全課 安全課長 納 裕美	死亡災害の10%以上減少と増加する死傷災害を減少に転じさせることを目標とした第14次労働災害防止計画の推進状況について報告する。
10:20 ～ 10:40	②～重筋作業を撲滅せよ～ 真空ポンプタンク清掃作業の安全化 (株)JFEウイング 製造部 溶接管工場 PLV職場 リーダー 酒井 真次	真空ポンプタンクは不純物を取り除き、パイプに被膜する樹脂を供給する重要設備で、タンク清掃作業(20回/月)を行うが、タンクが約20kgと重く腰等に負担が掛かり重筋作業となっている。油圧ハンドリフター導入・清掃作業の改善を行い、重筋作業を撲滅する事に成功した。



安全管理活動分科会②

10:40 ～ 11:00	③ 3重作業にさようなら ～重力に逆らい加重を掛ける重労働～ JFEスチール(株) 東日本製鉄所(千葉地区) 鉄粉部 鉄粉工場 中村 元紀	鉄粉仕上還元炉でのSUSベルト短縮作業時、ベルト切断部を溶接する際に表面に付着したケーキを剥がす必要がある。ケーキが付いた状態では溶接出来ないため、ケーキを剥がすのだが作業負荷が高い。どうすれば安全、かつ短時間で出来るかについて取り組んだ改善である。
11:00～11:10 休憩		
11:10 ～ 11:30	④ ロープレおよびKYT活動を通じた安全作業 および事故防止の視点から正則作業の確認 東急プロパティマネジメント(株) ビルマネジメント事業本部BM事業部施設サービス部 アメニティ課 植田 菜央	活動に至ったきっかけは、駅の利用客層の変化(外国人、高齢者および障がい者対応の回数増加)により多様な対応が必要になったが、安全作業の意識づくりも必要となった。ロープレやKYT活動など参加型および実戦形式の研修に切り替えスキルのボトムアップを図った。
11:30 ～ 11:50	⑤ 危険予知活動の活性化について (株)クリハラント 安全管理部 道脇 彰一	危険予知活動が低迷している中で、現場の声をきき、創意工夫して、「KY助言シート」を運用した。それを運用していく中で、課題を抽出し対応した内容を発表内容とする。
11:50 ～ 12:10	⑥ 安全意識の向上に向けた安全の取組み と事例発表 (株)JR西日本テクノス下関支店 安全推進部 車両係 大平 智明	重大労災リスクの抑え込みにより社員の安全が確保されている状態、安全・品質の意識が向上し、一人ひとりが能動的な考動を実践している状態を取組みテーマとし、社員の声を拾い上げ安全で働きやすい職場づくりや一人ひとりの安全意識向上を目指し全員参加の安全活動を展開した。
12:10 ～ 12:30	⑦ 荷役作業における機能分離と台数最適化による本質的安全の実現 (株)熊山LIXIL製作所 総務経理係 安全担当責任者 山田 努	人とフォークリフトの接触リスク低減のため、荷役作業の昇降と運搬の稼働をAI分析し、運搬作業を安全性の高い専用牽引車へ置き換えることでフォークリフトの稼働と台数を削減、リスクの芽を摘み、本質的安全を実現する。
12:30～13:20 昼休憩50分		
13:20 ～ 13:40	⑧ 作業のつながりの動作に目を向けた安全性向上活動 日産自動車九州(株) 製造部 第二組立課 品川 和也	私たちは同じ職場で働く仲間に怪我をさせないという強い意志の基、作業効率を高めながら災害を未然に防止する取り組みを進めている。今回の事例は、作業の中で行う車両から車両へ移動する歩行動作(つながり動作)に着目し、動作に潜むリスクの分析を行い改善を行った事例である。
13:40 ～ 14:00	⑨ ディスクグラインダー使用時の安全対策 東邦チタニウム(株) 茅ヶ崎工場 環境安全部 担当 田村 拓馬	2025年3月ディスクグラインダーの切断作業による災害が発生した。原因を調査した結果、作業者の技量不足、グラインダーに対する知識不足、砥石の特性の理解不足が確認された。それらの問題点を解消するため、切断作業者を認定化する仕組み作りと取組について報告する。
14:00～14:10 休憩		
14:10 ～ 14:40	特別報告 TAKANAWA GATEWAY CITY ～歴史遺構と未来を紡ぐ技術の挑戦～ (株)大林組 常務執行役員 東京本店建築事業部副事業部長 近藤 宏	TAKANAWA GATEWAY CITYは、日本初の鉄道が走った高輪の歴史を継承し、国際交流拠点として進められた国内最大級の再開発である。超高層・鉄道近接・大深度掘削などの厳しい条件下で高度な施工技術を結集し、100年先の未来への第一歩を築いた。
14:40 ～ 15:00	⑩ 職場レイアウト変更に伴う安全への取組 ナブテスコ(株) 鉄道カンパニー 西神工場 製造部 成形課 職長 徐 義恭	製造現場のレイアウト変更に伴い、製造工程のリスクアセスメントを実施した。リスクアセスメントの結果よりリスクレベルの高い工程の洗い出しができたのでその改善活動を行い、リスクレベル低下を実現した結果について発表を行う。
15:00 ～ 15:20	⑪ 保線作業における労働災害防止にむけた 人的作業省力化の取り組み 東日本旅客鉄道(株) 新幹線統括本部 高崎新幹線保線技術センター 主任 君島 康太	保線作業員へのアンケートで、体力的にきついと回答する割合が増加している。体力的にきつい状況下では、労災リスクは一般的に高くなると言われているため、省力化の取り組みが必要である。今回は新規に導入したモニタリング車等の活用による軌道整備作業の省力化事例を報告する。



安全管理活動分科会②

15:20 ～ 15:40	⑫NICHIGOゼロ災への挑戦 (株)NICHIGO 生産総括部 製造部 製造管理課兼ものづくり人材育成推進課 課長 浜野 修	当社では様々な労働災害防止の取り組みを行ってきているが、近年従業員の増加と共に労働災害の発生件数が増加してきており、その状況下で現在先進技術を活用した安全対策とヒューマンエラー防止の観点からノンテクニカルスキルに着目した活動を行っている。
15:40 ～ 16:00	⑬研削砥石交換作業の改善 ～自分事で考える安全職場を目指して～ (株)日本製鋼所 室蘭製作所 素形材製造部 圧延課 担当課長 對馬 智也	研削砥石交換が重筋作業で作業性と安全性に課題があると判明し、トラックのタイヤ交換を参考にした発想で砥石の交換治具を内作した。公開検討で改良を重ねリスクを7件低減し、動画手順書でも理解向上を図った取り組みである。



ゼロ災運動分科会



交通安全分科会

会場 札幌市産業振興センター 体育実習室

9月17日(木) プログラム(9:00開場)

9:30 ～ 9:50	①現場力を引き出せ!管理者と作業者が共に挑んだSKYT改革への軌跡 (株)北川鉄工所 経営管理本部 安全・環境推進部 安全衛生管理課 主任 長島 絵梨	形骸化していたSKYT活動の原因を洗い出し、管理者と作業者が主体となって活動を改革。題材や体制、フィードバック方法を見直し、現場写真や専用シートを活用して対話と気づきを促進。全員でリスク感知力・対策能力・伝達力を高める活動を実践。
9:50 ～ 10:10	②形骸化した安全衛生活動を、トップダウンとボトムアップの両輪で再生を目指す。 (株)富士ロジテックホールディングス 総務部 安全品質担当部長 白井 春彦	当社の安全品質活動はいつの間にか形骸化し拠点長が記録を残すだけとなってしまったと気づいた。そこで経営者であるトップと業務責任者である拠点長らが「ゼロ災で行こう」を共通言語とし、各拠点でのヒューマン対策に基づく安全衛生活動を根付かせる取組を始めたので発表する。
10:10 ～ 10:30	③みんな一緒に育てる気になる樹!咲かせよう、みんなの和、目指せ労災ゼロ 京浜急行電鉄(株) 鉄道本部 運輸営業部 上大岡駅 営業主任 大塚 順一	勤務中の軽微な出来事やリスクについて、既存のヒヤリハット報告書では時間と手間がかかり、職場内で共有されにくいという問題点があった。メッセージボードを掲示し、日々の出来事やヒヤリハットを気軽に共有することで、チームの安全意識と職場の活性化を図る取り組みである。
10:30 ～ 10:50	④「自分の命は自分が守る、仲間の命も自分が守る」行動で築く安全風土 (株)エヌ・ティ・ティ エムイー 通信インフラデザイン部 安全センタ 担当課長 新濱 睦欣	『自分の命は自分が守る、仲間の命も自分が守る』覚悟を軸に、KY形骸化という危機を打破。安全研修を内製化し、KYT基礎4R法を現場に即して再構築。研修後もボイスKYを定点観測し、伴走支援で安全風土を醸成、労災ゼロへ挑む。
10:50～11:00 休憩		
11:00 ～ 11:20	⑤ゼロ災達成に向けた取組事例 日本車輛製造(株) 鉄道車両本部 生産本部 製造部 機装センター 舟橋 功祐	日本車輛製造株式会社では、安全最優先の文化を醸成し労働災害の根絶に向けて日々、安全管理活動を継続しているところであるが、労働災害根絶を目指し、取り組んだ全員参加の「指差喚呼」活動、5S・3定活動、安全教育等について報告を行う。
11:20 ～ 11:40	⑥3年間の軌跡 ～ヒヤリ・ハットで見つけた意外な事実～ マンパワーセキュリティ(株) 警備一課 坂井 悠起	3年前、上司に呼ばれ「近頃、安全に対してのプロ意識が全体的に希薄である。そこで危機意識を高める為にKYプロジェクトチームを作ろう」と突如スタートした。ヒヤリ・ハットのデータを分析・解析と色々取り組んだ結果、気付いた意外な事実を3年間の軌跡にたどり紹介する
11:40 ～ 12:00	⑦他者の労災をわがことへ 被災社員インタビュー『業務災害 生の声』 (株)グリーンテック 安全管理部 安全企画・推進グループ 清水 智美	過去の災害と類似事案が発生し件数が横ばい状態。社員がついといってしまう不安全行動を抑えることが課題だった。ゼロ災運動のエピソード「一万人の一人」から「心」に着目。被災社員が語る生の声を動画視聴することで、心を揺さぶり1件の重みを知る活動である。



12:00 ～ 12:30	特別報告 運動展望 中央労働災害防止協会 教育ゼロ災推進部 主席参事 1. ゼロ災運動とは(人間尊重の理念と「ゼロ・先取り・参加」) 2. 健康づくり(転倒・腰痛予防体操) 3. 働きがい(ワークエンゲイジメント) 4. ゼロ災運動の職場づくり、人づくり(コミュニケーション、新手法検討)	武井 勝一
12:30～13:20 昼休憩50分		
13:20 ～ 13:40	⑧ 確実な情報展開が安全活動に繋がった (株)東研サーモテック 橋本工場 工場長 本田 博文	金属熱処理会社のゼロ災運動を紹介①新人ばかりの新設工場②コミュニケーションの重要性に気付く③情報共有の為にミーティング場を現場内に設置④作業手順や決め事を載せたルールブックを全員に配付⑤管理者がKYT激励コメントするよう訓練講習実施⑥始業前短時間KYT実技予定。
13:40 ～ 14:00	⑨ 油断による危険を無くしゼロ災害を目指す 有楽製菓(株)札幌工場 総務課 一般職 太田 穂乃花	当事業所は安全推進活動の結果、2024年度は労働災害発生ゼロを達成したが、2025年度に生産終了後のタイミングで労働災害が発生。「安心感・油断による危険」をテーマに共有とコミュニケーションで危険感度を高める取り組みを実施。
14:00 ～ 14:20	⑩ タツタ電線グループ横断の災害ゼロ化活動について タツタ電線(株) 環境安全管理部 主任 山田 竜太郎	拠点ごとに安全活動を任せてきた結果、取組のばらつきや災害件数の下げ止まりが課題となったため、2024年度より全拠点共通で熱中症、カッターナイフ切創、段差による転倒、フォークリフト事故の災害ゼロ化活動を開始し、その取組内容と効果を報告する。
14:20 ～ 14:40	⑪ 安全衛生講習機関におけるゼロ災活動の取り組み(転倒災害防止講習の実現) (公社) 神奈川労務安全衛生協会 小田原支部 事務局長 鎌田 光郎	小田原支部では増加に転じた労働災害の実態調査を実施した結果、高年齢労働者の転倒災害の増加が顕著であることが判明した。支部安全部会でその原因と対策を検討し、現状の危険体感教育講習にロコモ講習を加えた「新危険体感教育講習」の運用を開始した。そのプロセスを報告する。
交通安全分科会		
14:40 ～ 15:00	① 優良乗務員育成プロジェクトの取り組みについて 名糖運輸(株) 安全品質管理部 課長 間野 時満	過去の事故データから重要リスクを特定し、重要リスク下で優良乗務員はどのように注意し、安定的に安全運転をしているかを、専門家の指導の下で、ドラレコデータなどから分析し、優良乗務員モデルとして動画教材を作成し、各事業場での教育活用した事例と成果を発表する。
15:00 ～ 15:20	② 安全運転マスタープログラムの取り組みについて 東日本旅客鉄道(株) 長野支社 長野電力設備技術センター 安全G 主務 飛矢崎 篤	当技術センターは近年業務中の交通事故が増加傾向にあり、交通安全マスタープログラムを導入した。過去の事故統計・ドライブレコーダー画像による分析、交通・社内法規の教育実施と個人目標設定の仕組みである。これにより交通事故の減少が図れたことから取り組みについて報告する。
15:20～15:30 休憩		
ゼロ災運動分科会		
15:30 ～ 15:50	表彰式 ゼロ災運動 表彰式	ゼロ災運動の普及、推進に積極的に取り組んでいる事業場・個人・団体に対してゼロ災運動推進感謝状を贈呈する。また、全国ゼロ災運動推進協議会が募集した、ゼロ災運動の標語と危険予知訓練イラストシートの優秀作品への表彰を行う。
15:50～16:00 休憩		
16:00 ～ 17:00	講演 「感謝と称賛」を生かした強い組織づくり～安全の現場や多様性あるチームへの応用～ 東京女子大学 現代教養学部 心理学科 准教授 正木 郁太郎	仕事の要求や負荷が高まる中、人手も不足し、組織運営の難度が増している。本講演では困難に対処する「組織力向上」の手段として、感謝と称賛に関する心理学の研究や、企業の実践事例を紹介する。安全の現場への適用例や、実践のコツ、風土作りへのつなげ方なども紹介予定である。



安全管理活動分科会③

会場 札幌市産業振興センター 体育実習室

9月18日(金) プログラム(9:00開場)

9:30 ～ 9:50	①SUMCO千歳工場 安全の取組み (株)SUMCO千歳工場 総務課 田中 海磨	SUMCO千歳工場 安全の取組み
9:50 ～ 10:10	②健診の流れで簡単!姿勢チェックとストレッチで健康意識アップ (株)本田技術研究所 管理センター 研究開発安全推進室 安全衛生ブロック スタッフエンジニア 廣瀬 久代	従来は対象限定で推進に工数を要した健康施策を、法定健診の流れに組み込み、短時間且つ負担のない姿勢チェックを約1万人に実施。専門家と連携し、結果に応じたストレッチ動画と教室を提供することで、健康意識向上と姿勢改善を促すTHP活動の取組みを紹介する。
10:10 ～ 10:40	特別報告 「お豆腐からレンガまで」異業種130社 3500名 地域最大の企業集団の安全と健康の取組み 江別工業団地協同組合 理事長 杉野 邦彦	江別工業団地協同組合は異業種の工業団地として日本第1号の認可となった共同受電事業を基盤に安全衛生・福利厚生・販売購買・総務・共同受電の5つの委員会を組織し年間100の事業に取組む日本でも特異なチャレンジ集団である。安全と健康で地域に貢献する組合の全貌を紹介する。
10:40～10:50 休憩		
10:50 ～ 11:10	③安全性・作業性を向上させた断線復旧方法の確立 東海旅客鉄道(株) 新幹線鉄道事業本部 東京統括電気所 品川電機技術センター 電気技術係 三原 将徳	本研究の目的は東海道新幹線のトロッコ線断線復旧作業における、安全性と作業性の向上である。目的達成のため、チルホルの導入、分割接続金具の採用、ロープワークの簡素化に取組み新工法を開発。新工法により高所作業の低減と作業姿勢の改善を実現し、安全性と作業性が向上した。
11:10 ～ 11:30	④転倒災害撲滅に向けた活動 ～クリーンルーム～ リコーインダストリー(株) 本社事業所 IP生産事業部 生産センター 第二生産室 生産三G 担当 野村 大	23年より転倒災害防止に向けサイネージを活用して現場への「伝え方の工夫」に取り組んできた。25年は転倒事例を分析し、仮説設定、検証を行うと共に対策効果の定量評価に取り組んだ。データに基づく対策を実行し現場の転倒リスクを科学的アプローチで低減した事例である。
11:30 ～ 11:50	⑤現場一体となった「つまづき事故ゼロ」に向けた活動強化 (株)サンゲツ 関西ロジスティクスセンター ロジスティクスセンター統括室 関西ロジスティクスセンター 物流担当 廣橋 捷太	重大災害に繋がりがかねない「つまづき事故ゼロ」を目指し、ヒヤリハット強化による現場リスクの対策、安全呼びかけ放送や協力会社との連携、フォークリフト作業者への実技指導を強化することで、現場全体の安全意識・危険予知能力の向上を進め、安全な作業環境を構築していく。
11:50 ～ 12:10	⑥宣言行動での情報発信によるミス・エラーの低減 日本電設工業(株) 横浜支社 施工管理課 課長 片山 智一	作業員は自分の担当作業を行いながら仲間の行動を逐次チェックはできない。仲間の行動がわからないと誤った行動をその場で正すことができない。そこで、自分の行動を事前に仲間に情報として発信する(宣言)ことで事故事象の低減に繋げる。
12:10～13:00 昼休憩50分		
13:00 ～ 13:30	特別報告 世間に知られない空港安全の現場力 ～降雪期の労働負荷低減と空港特有リスクへの挑戦～ 三共電気工業(株) 千歳支店 常務取締役 兼 千歳支店長 内田 順一	空港は24 時間止めることのできないインフラである。私たちは表に出ることなく、陰で安全を守り続けている。雪国ならではの過酷な環境下での労働負荷低減の工夫、空港特有のリスクを防止するシステムの導入など、普段は世間に知られることの少ない現場の安全活動を紹介する。



安全管理活動分科会③

13:30 ～ 13:50	⑦転炉自動吹付機戦力化による吹付け作業の安全性向上 日本製鉄(株) 関西製鉄所 製鋼部 製鋼工場 班長 長田 宗司	2022年、当工場の転炉職場にて類似作業での災害が2件連続で発生。過去に導入した自動化設備が安定稼働できておらず、オペレーターによる手動作業が常態化していた。今回、自動化設備の安定稼働を目指すため、特別チームを結成し、2点の対策を実施したので報告する。
13:50 ～ 14:10	⑧労働災害原因の「定量評価」並びに「安全管理上の弱点」への気づき (株)J-POWERハイテック 安全品質環境管理部 業務推進役 川野 政彦	労働災害の内、重症災害等は重要視され相応の対策が講じられるが、不休災害では看過できない発生原因もありながら、往々にして軽視されている実態がある。被災程度に左右されず、発生原因を「定量評価」し更に、その企業の「安全管理上の弱点」を知ることができる手法を開発した。
14:10 ～ 14:30	⑨ウェアラブルデバイスを活用した熱中症対策の有効性について (株)シマブンコーポレーション ソリューション事業部 事業部長 喜田 陽介	高齢化と猛暑で熱中症リスクが高まる中、企業には効果的で客観的な対策評価が求められている。ウェアラブルデバイスで体調や環境を可視化し、対策効果を定量比較することで、安全性向上と投資効果最大化を実現した事例を報告する。
14:30～14:40 休憩		
14:40 ～ 15:00	⑩安全活動を『プラスの価値』へ (株)神戸製鋼所 技術開発本部 開発業務部 試作実験室 職長 大山 高志	安全活動を前向きにするため、褒める文化を導入。パトロール改善、提案対応強化、DX活用で現場の意欲と安全性を高める取り組みを推進。
15:00 ～ 15:20	⑪教訓から火災ゼロを仕組みで実現するマネジメントへの変革 トヨタ車体(株) 本社・富士松工場 安全健康推進部 防火企画推進室 SX 稲本 将晃	現場の声を反映し「防火工程管理」という管理ツールを作成した。このツールは管理項目・基準等を明確化し、法令・社内基準と担当を一元化した。これにより、防火管理の抜け漏れを防ぐ仕組みを整えた。また、防火アセスと工程管理を連動させ、リスクの見える化と対策を実現した。
15:20 ～ 15:40	⑫車両所内の各種車両入換作業における作業安全の向上 小田急電鉄(株) 大野総合車両所 検査職場 車両検査主任 玉木 博之	1両(約30トン)の車両を2名で移動させる作業は、常に触車災害のリスクがある。所属員の安全性向上を図るため、ヒヤリハットの集計とリスクアセスメントによる現状に即した規則の改訂、視覚と聴覚により注意喚起を促す取り組みを職場全体で行った。その内容について紹介する。
15:40 ～ 16:00	⑬保守用車使用時の厳守事項の取組みについて 九鉄工業(株) 北九州本店 折尾線路技術センター 係長 清水 智貴	軌道保守作業で使用する保守用車の監督者やオペレーターは、保守用車使用時の厳守事項を順守し事故防止に努めることが責務である。本発表は、保守用車監督者やオペレーターにおけるポイント部や踏切の見え方を分析し、事故防止のポイントについて考察した内容について紹介する。

中災防賛助会員 入会のご案内



賛助会員にご入会いただくことで各種サービスがご利用できます



「全国産業安全衛生大会」のご優待



教育研修・専門技術の利用が会員料金 など



これらのサービスは一例です。

ご入会手続きにつきましては、**中災防賛助会員** で検索!

お問合せは 総務部 広報課 03-3452-6049 kaiin@jisha.or.jp



メンタルヘルス・健康づくり・健康経営分科会

会場 カナモトホール 大ホール

メンタルヘルス・健康づくり・健康経営分科会 会場に
「高年齢者対策、ストレスチェック ～50人未満実施マニュアルへの対応～
無料相談コーナー」開設！
お気軽にご相談ください。

9月17日(木) プログラム(9:00開場)

9:30 ～ 9:50	①女性特有の健康課題への支援 ～アンケート結果を踏まえた検討～ 中国電力(株) 鳥取支社 健康管理センター 保健師 北濱 淳子	女性特有の健康課題に対する職域支援を目的に、産業医・保健師によるプロジェクトチームを発足した。活動初年度は、社内専門相談員の育成、女性従業員や所属長へのアンケートによる実態把握と支援策検討に取り組んだ。アンケート結果から分かった課題と活動概要について報告する。
9:50 ～ 10:20	特別報告 人財戦略としてのプレコンセプションケア～若年層の健康課題を見据えて～ (株)JUMOKU 代表取締役 日本産業衛生学会専門医・指導医 産業医科大学医学部衛生学非常勤講師 長井 聡里	若年層の健康課題は、将来の妊娠・出産を含むライフコースの観点から、現在プレコンセプションケアとして注目され始めている。女性特有の健康問題や男性を含む生活習慣を就労者の個人任せにせず、就業継続リスクとして捉え、企業の安全衛生戦略と人財戦略に組み込む方策を産業医の立場から考察する。
10:20 ～ 10:40	②従業員の喫煙率低下に向けた各種施策の取組み ほくでんサービス(株) 人材共創部 人材共創課 健康相談室 保健師 吉村 彩	喫煙率低下を『疾病予防対策』の一環と捉え、病気の早期発見・治療のための「健康診断再検査受診率100%」、厚労省が推奨する生活活動「1日8千歩以上の歩行を習慣化」への取組みと併列に扱い、喫煙率を20%以下という目標を設定し取り組んだ。
10:40 ～ 11:00	③ポジティブ心理学に基づくポジティブメンタルヘルス施策の推進について 中部電力(株) 安全健康推進部 健康増進グループ 保健師 田島 加奈子	当社では、ウェルビーイングの実現を目指し、ポジティブ心理学に基づく「PERMA理論」を活用したメンタルヘルスの0次・1次予防施策を推進している。ポジティブ感情の醸成を通じた働きやすい職場や人間関係の構築を目指す当社の取り組みを報告する。
11:00～11:10 休憩		
11:10 ～ 11:30	④からだ機能チェックにおける従業員の健康維持改善取組み (株)本田技術研究所 管理センター 研究開発安全推進室 安全衛生ブロック チーフ 今野 真貴子	認知機能と身体認知機能は分離して評価されることが一般的であるが、相互関係や協調性を統合的に評価する体系的な仕組みをつくり、測定結果を可視化することにより、従業員自らが健康に気づき、経年変化の把握と共に転倒リスクを早期に発見し、災害の未然防止に寄与する。
11:30 ～ 11:50	⑤メンタルヘルス対策における多職種連携の重要性 中外製薬工業(株) 藤枝工場 総務グループ 長谷川 路子	多職種が連携しメンタルヘルス対策を強化。早期対応体制の構築で不調者が減少し、今後は一次予防にも注力する実践事例を報告する。
11:50 ～ 12:10	⑥製造業における管理栄養士が取り組む健康経営 トヨタ自動車北海道(株) 安全健康推進部安全健康推進室健康グループ 管理栄養士 井上 雛子	トヨタの部品工場である当社では産業保健スタッフとして管理栄養士2名が在籍。保健指導を主業務としながら、幅広く健康づくり活動に従事。従業員からは特定保健指導への拒否感があったが、様々なチームでの取り組みと栄養士ならではの専門的な指導手法で実施率が飛躍的に向上。
12:10～13:20 昼休憩70分		



メンタルヘルス・健康づくり・健康経営分科会

13:20 ～ 13:40	⑦中小規模事業場で取組む健康経営10年「働きたいと思う年齢まで働ける職場づくり」 (株)オノモリ 統括本部 取締役 小野森 喜子	弊社では複数の従業員の病気をきっかけに健康経営の必要性を実感した。従業員と寄り添うことを大切にしながら、試行錯誤で10年取組んできた。関係機関から情報を収集し、「ふぁいと手当」等、有効な取組みについては積極的に導入してきた。その経緯と成果を報告する。
13:40 ～ 14:00	⑧「通訳的介入」による相互理解と安定就労～対話と連携による組織的支援～ 北海道瓦斯(株) 人事部勤労グループ 保健師 小友 亜紀	当社では全社員の安定就労を目指し、「私傷病サポートガイドブック」に基づく支援を行っている。生活記録等のケアに加え、困難時は人事が介入し組織で対応する。特に上司との相互理解を深める「通訳的介入」を通じ、安心して長く活躍できる環境整備につなげた実践を報告する。
14:00 ～ 14:20	⑨プレゼンティーズム低減に向けた睡眠対策の推進「睡眠改革、始動！」 JFEスチール(株) 東日本製鉄所(千葉地区) 安全健康室 保健師 柴田 晴子	当事業所のKPIである「プレゼンティーズムの低減」のため、意識・行動変容の指標の1つである「良質な睡眠を確保すること」を重点健康活動項目として掲げ、2025年より取り組んでいる。初年は、現状把握と、睡眠リテラシー向上のための基盤づくりを推進したので報告する。
14:20～14:30 休憩		
14:30 ～ 15:30	講演 なぜあの人は行動しない？ ～ナッジで望ましい行動へと促す～ 青森大学 社会学部 客員教授 竹林 正樹	行動の重要性を理解してでも行動を先延ばしする背景に、認知バイアスがある。認知バイアスの特性に沿った設計(ナッジ)を行うことで自発的な行動を促すことが可能になる。政府はナッジによる行動促進を推奨している。本セッションではナッジの基礎から実践まで、一発でわかる時間にする。
15:30～15:40 休憩		
15:40 ～ 16:00	⑩AI道場で挑む!保健師の挑戦 ～社員のウェルビーイングをPythonで探る～ マツダ(株) 安全健康防災推進部 健康推進センター アシスタントマネージャー 荒俣 静香	健診・問診・ストレスチェックなど膨大な健康データをExcelで分析することに限界を感じていた保健師が、マツダ独自のIT教育制度「AI道場」に参加。Pythonや統計学をゼロから習得し、AIを活用して健康課題の可視化やウェルビーイング向上の要因分析を行った。
16:00 ～ 16:20	⑪日系大手企業における再発予防と新規休職者の原因把握に関する取り組み キューブ・インテグレーション(株) メンタルヘルス支援チーム エグゼクティブコラボレーター 島倉 大	近年精神疾患による休職率の増加は多くの企業で課題となっている。一方、その課題感には企業の規模や業態によって様々であり、画一的な対策では対応が困難な実情がある。今回は当社で日系大手企業との間で取り組んだ「再発予防と新規休職者の原因把握」に関する内容を報告する。
16:20 ～ 16:40	⑫健康イベントの継続実施による「良好運動習慣者割合」向上の取り組み 北海道電力(株) 人事労務部 労務安全グループ 副主幹 濱 義博	多くの人が会社で過ごす所謂「現役世代」期間中に自発的・継続的な健康活動習慣を身に付け、それを実践することが健康寿命の延伸に繋がるため、当社はウォーキングイベントを推奨して、従業員一人ひとりの運動習慣の定着に取り組み「良好な運動習慣を有する者」の割合を改善した。
16:40 ～ 17:00	⑬心理的安全性が生み出す安全で活力ある職場～現場主導のコミュニケーション改革～ 富士製薬工業(株) 経営管理部 人事グループ 田賀 夏海	心理的安全性を高めるコミュニケーション改革を通じ、現場の声を起点に安全・健康課題を可視化し、メンタルヘルス向上と安心して働ける職場づくりを推進。社員主体の実践により行動変容を促し、労働安全衛生と健康経営の両立を実現してきた取り組みを共有する。

9月18日(金)

プログラム(9:00開場)

9:30 ～ 9:50	⑭自動車部品製造業における従業員の転倒予防へ向けた体力測定の取り組み 三桜工業(株) 古河本社工場 総務本部 総務部 健康衛生管理グループ 柏倉 紀子	社内(K工場)における転倒労災増加に対応し、体力測定を導入した。測定結果をその場で提供できるシステムを構築することで従業員の負担を軽減しつつデータを取得し、健康意識向上と労災予防に資する実務的取り組みの成果を報告する。
9:50 ～ 10:10	⑮働きながら健康になれる職場づくり パナソニックインダストリー(株) 人事戦略統括部 カルチャー変革課 シニアエキスパート 上田 千穂	弊社は北海道から鹿児島まで国内に30拠点をかかえる電機機器メーカーです。3年前に健康経営推進課が発足。戦略マップ設定後は拠点風土を確認するため現地をめぐり現地現物。OneTeamで目指した内容と成果を発表する。



メンタルヘルス・健康づくり・健康経営分科会

10:10 ～ 10:30	⑯笑いの頻度と総合健康リスクの関連と、 笑いを増やす事業所の活動について 三井化学(株) 茂原分工場 健康管理室 保健師 島田 美幸	職場における「笑い」は、コミュニケーションの円滑化やチームワークの向上につながるといわれている。そこで「笑い」とストレスチェックとの関連を調査し、当工場においての「笑い」の効果について検討した。さらに「笑い」を増やし、風土を良くするための活動について報告する。
10:30 ～ 10:50	⑰職員の健康づくりをサポートする取り組み事例の紹介 (一財)北海道電気保安協会 労務部 保健師 酒井 弥生	当協会では、職員の健康づくりを積極的に行うことで、生産性・収益性を高めていくという考え方のもと、定期健康診断後の二次検査受診率の向上や健康的な生活習慣を楽しく無理なく身につける機会(「ヘルスチャレンジ」)等を継続的に実施しており、その取り組み概要を紹介する。
10:50～11:00 休憩		
11:00 ～ 12:00	講演 従業員の活躍最大化と、企業活動の基盤としての組織風土変革 マツダ(株) 人事本部 本部長 西川 智士	マツダにとって最も重要な資産は人であり「価値創造の源泉は人」である。マツダの従業員一人ひとりが活躍できる環境の実現に向けた組織風土変革の全体像を報告する。
12:00 ～ 12:30	特別報告 北海道における労働者の健康確保について 北海道労働局 労働基準部健康課 健康課長 吉田 佳孝	北海道で働く方の健康確保対策について、事例を挙げて紹介する。また、熱中症による労働災害についてもデータを示して報告する。
12:30～13:20 昼休憩50分		
13:20 ～ 13:40	⑱ストレスチェックの集団分析結果を活用した職場環境改善について (株)北海電工 人事労務部 保健師 東田 晃代	メンタルヘルス不調の要因となるストレスの防止対策の一環として、ストレスチェック集団分析を活用した管理職対象の研修を実施し、職場ごとに作成した改善施策を通じて全社的かつ継続的に職場環境の改善に取り組む。
13:40 ～ 14:00	⑲社員食堂を活用した食育の取り組み～スマートミール普及活動～ トヨタ自動車(株) 本社 安全健康推進部 健康推進室 健康推進G 藤田 恵子	2014年以降の健康経営調査や認証制度を背景に、職域における食育活動に注目が集まっている。弊社では社員食堂で健康的なメニューを提供し、周知活動や喫食を通して食育活動を実施している。特にスマートミール普及に力を入れてきたので、その活動内容について報告する。
14:00 ～ 14:20	⑳仕事の要求度一資源モデルを用いたストレス、ワークエンゲイジメントの影響因子の検討 神戸製鋼所神戸総合技術研究所 神戸製鋼所技術開発本部開発業務部総務室 森 光利	ストレスチェックおよび当事業所での独自調査の結果から仕事の要求度一資源モデルを活用し、構造方程式モデリング(SEM)で心理的ストレス、ワークエンゲイジメントに影響の大きい因子について検討した。検討結果と結果の各部署へのフィードバック、取り組みについて紹介する。
14:20～14:30 休憩		
14:30 ～ 16:00	パネルディスカッション 若者のメンタルヘルスケアを考える 座長 神奈川大学 人間科学研究所 客員教授 松本 桂樹 パネリスト (株)構造計画研究所ホールディングス 総務部社内コミュニケーション室 チームリーダー 小島 有香子 日鉄ソリューションズ(株) 人事本部人事企画部 健康経営グループリーダー 椎葉 倫代 東京工科大学デザイン学部 就職担当特任講師 野条 美貴	SNSなどITの進展によって、対面コミュニケーションが減少するなどの弊害が表れている。特にスマートフォンが普及した世代のコミュニケーションやメンタルヘルスケアに注目が集まっており、事業場や大学での取組、若者への支援方法を考える。